

リアホナ

義にかなった
女性の影響力,
2ページ

宣教師になる方法,
26-35ページ

人生を変えた総大会の説教,
36ページ

テントの中での証,
「フレンド」4ページ

成人

大管長会メッセージ

- 2 義になかった女性の影響力
ディーター・F・ワークトドルフ管長

家庭訪問メッセージ

- 25 キリストの福音を理解し、福音に生きる

特集

- 8 ある家族の奉仕の伝統 ドン・L・サール
5世代にわたって忠実な奉仕に携わってきたパラグアイのある家族。
- 18 連綿たる啓示の物語——次第に明らかになる七十人の役割
アール・C・ティンギー長老
七十人の歴史から、主が教会に対して御心みこころを示される方法を
かいま見ることができます。
- 36 4つの説教が4人の人生を変えた
4人の会員が、総大会からどのように祝福を得ているかを語ります。

シリーズ

- 40 教義と聖約からのメッセージ——
人を救うこと、これがわたしたちの宗教です
エリック・W・コピシユカ長老
教会員には霊的物質的に困っている人を救う義務があります。
- 44 末日聖徒の声
婚約者を選ぶか、教会を選ぶか。父の思い出。ヒンクレー大管
長の呼びかけにこたえる。警告の声に注意する。
- 48 今月号の活用法
家庭の夕べのアイデアと今月号に採り上げられているテーマ。

青少年

特集

- 14 神殿に参入するアバディーンアバディーンの青少年
ポール・バンデンバーグ
スコットランド・アバディーンステークの青少年は、毎年恒例の神
殿訪問を一年中楽しみにしています。
- 26 なぜ伝道活動を行うのでしょうか ダリン・H・オークス長老
単によりよい生活を送るように説得するためだけに伝道し教え
ているわけではありません。それは大切ですが、さらに大いなる
ものを差し出しているのです。
- 28 備えができている人はだれでしょう アリソン・リー・パートン
友達に福音を分かち合わなければという促しを感じましたが、
思ったように進みませんでした。
- 31 友はあなたに似た者になる ホセ・マリア・マルケス・ブランコ
わたしたちが福音に生きるなら、人はわたしたちの中にある
違いに目を留めるでしょう。

シリーズ

- 13 短いメッセージ
モルモン書からの予期せぬ教え。
- 32 福音クラシック——第1にバプテスマを受ける
デビッド・B・ヘイト長老
永遠の家族は神殿で結び固められます、しかし、バプテスマが
最初です。

- 35 ポスター——
手をお貸ししましょう
- 39 御存じでしたか?



表紙
表紙——「神に愛された」サイモン・デュイ画
裏表紙——写真加工/マシュー・ライアー

リアホナ 2009年9月号
第11巻第9号 (04289 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌 (日本語版)
大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
データー・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、
ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、
M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、
ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、
デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、
D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン

編集長: スベンサー・J・コンティ
顧問: キース・K・ヒルビック、菊地良彦、ポール・B・バイパー
実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク
編集ディレクター: ビクター・D・ケーブ
編集主任: ラリー・ヒラー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ
編集主幹: R・バル・ジョンソン
編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オソリン
共同編集者: ライアン・カー
編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: デビッド・A・エドワーズ、マシュー・D・フリットン、ラリー
ン・ポーター、ガント、アニー・ジョーンズ、キャリー・カステン、ジェニ
ファー・マディ、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデ
カーク、ジュディス・M・バーラー、ジョシュア・J・バーキー、チャド・E・
ファレス、ジャン・ビンボロ、リチャード・M・ロムニ、ドン・L・サール、
ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル

主任秘書: ローレル・トイスチャー
実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・P・カンペン
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン制作スタッフ: カリ・R・アロヨ、コレット・ネバカー、オーヌ、ハワード・
G・ブラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリ
ステンセン、キム・フンスターマー、キャスリーン・P・ワード、エリック・P・
ジョンソン、デニス・カービー、スコット・M・ムイ、キニー・J・ニコルソン

製版: ジェフ・L・マーティン
印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック
配送ディレクター: ランディ・J・ベンソン
日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブス・ローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6 / 末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール—liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウ
クライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジ
ア語、ロシア語、キルギス語、クアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェ
ーデン語、スペイン語、スロベニア語、セバノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、チエコ語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トルガ語、日
本語、ブルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒンディー語、ヒンディー語、フ
ィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポルトガル語、
ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リト
ニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において
一時的に、また非営利目的で使用する場合は複製することができます。
視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場
合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載
されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音ライブラリ)をクリック
してください。その他の言語は「Languages」(言語)をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年9月号第11巻第9号「リアホナ」(USPS331)英語版(ISSN
1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple
Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は
年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み/定期刊行物郵送料は
ソルトレークシティで納められています。住所変更は60日前にご連絡くだ
さい。最近の号の宛名ラベルを同封し、新旧送先を明記してください。合衆
国とカナダでの購読申し込みは、下記のソルトレーク配送センターにお送りく
ださい。購読に関するお問い合わせ: 1-800-637-5971。クレジット
カード(ビザ、マスターカード、アメリカンエキスプレス)でのご注文は電話で承
ります。(カナダ郵便情報: 出版承諾番号 40017431)

郵便局長殿: 住所変更がございましたらお知らせください。連絡先: Salt
Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,
Salt Lake City, UT 84126-0368

こども 子供

- F2 **預言者の声**
心の中の愛を行いに示す トーマス・S・モンソン大管長
- F4 **特集**
キャンプファイヤーでの物語とあかし
ブレット・ニールソン
- F10 **なぐさめを受けたルーシー** ジュリアンヌ・ドナルドソン
- シリーズ
- F6 **よげんしゃジョセフ・スミスのしょうがいから—
よげんしゃのれいかん**
- F8 **分かち合いの時間—よげんしゃは かぞくを 強める
ほうほうを 教えてくれます**
シェリル・エスプリン
- F12 **おもちゃばこ—
せんきょうしのやくそく**
アリー・バン・デ・グラーフ
- F13 **ちいさなみんなのために—
でんどうにそなえる**
バル・チャドウィック・バグレー
- F14 **ちいさなお友だちへ—ひと々への接し方**
フランシスコ・J・ビーナス長老
- F16 **色をぬりましょう**



「フレンド」表紙
絵/スコット・グリア



今月号のどこかに隠れている
英語のCTRリングを
捜しましょう。
選べ、正しいページを!



読者からの便り

霊的な宝

教会員になったばかりのころ、『リア
ホナ』を定期購読することに興味があり
ませんでした。しばらくしてわたしはあ
まり教会に行かなくなりました。もう一
度、教会に毎週行くという目標を立てた
とき、わたしは『リアホナ』の定期購読
を申し込みました。そのときにやっと、
長い間霊的な宝を見遇ごしにしていた
ことに気づいたのです。この機関誌は
単なる教会の情報誌ではなく、教会員
同士の意思疎通の道具なのです。これ
を通して、証や体験談、メッセージ、そ
してわたしたちの時代のための勧告を共
有できるのです。この機関誌には毎日
応用できる教えが載っています。

ブラジル、クラウディア・ソウザ・アレンカル

励ましと教え

わたしは教会の会員ではありません
が、職場の友人から受け取る『リアホナ』
から励ましを受けています。それだけ
なく、『リアホナ』には特に子供たちや若
い人たちにとって、そしてわたしにとつ
ても、有益な教えが載っています。わたし
は一般の会員の方から寄せられる、信仰
を鼓舞する経験談が好きです。挿絵もわ
たしにとってはとても魅力的です。とつ
も明瞭に表現豊かに描かれています。で
すから、「ほんとうにすばらしいです、あり
がとうございます」と言わせてください。

ドイツ、ベアトリーセ・カッレル・ウルリッヒ

ご意見、ご感想を liahona@ldschurch.org にお送りくだ
さい。掲載するお手紙は、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現
にするために編集されることがあります。



義にかなった女性の影響力

大管長会第二顧問

ディーター・F・ウークトドルフ管長

聖文には、その霊的な賜物によって、^{たまもの}世代を超えて個人や人々を祝福した女性の名前が記されています。すべての命ある者の母であるエバや、サラ、リベカ、ラケル、マルタ、エリサベツ、救い主の母マリヤは、いつの時代も尊ばれ、覚えられるでしょう。また、イエスがガサラの井戸のそばで会われたサマリヤの女(ヨハネ4章参照)、箴言第31章に描写されている理想的な妻や母、救い主の衣に触れただけで癒された信仰深い女性(マルコ5:25-34参照)のように、聖文に名前は記されていないけれども、その模範や教えを通してわたしたちの生活を祝福してくれる女性たちもいます。

この世の歴史と回復されたイエス・キリスト教会の歴史を振り返るとき、天の御父がその子供たちの永遠の幸福と^{あんねい}安寧のために立てられた計画の中で、女性が特別な位置を占めていることが明らかになります。

世界中の愛する姉妹の皆さんは、祖母や母、おば、友達として、特に、尊い子供たちや若人の人生に、良い影響を与えることができます。どうぞその影響力を過小評価しないでください。

ヒーバー・J・グラント大管長(1856-1945年)は次のように言いました。「母親の心に、生ける

神への献身と完全な証^{あかし}がなければ、この教会は消滅することでしょう。」¹ また、箴言の作者はこのように記しています。「子^こをその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言22:6)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教会の女性たちに次のように勧告しました。

「教会の女性が主の計画から見て適切かつ正しいことのために力強く確固として立つのは、この上なく重要なことです。……

教会の女性の皆さん、歩みをそろえて義を擁護してください。まず、自分の家庭から始めることです。クラスの中で義について教えることもできます。社会の中で義を守るために発言することもできます。」²

小さなちょうつがい^{ちょうつがい}が大きな門を動かすということわざがあります。姉妹の皆さん、一見ささいに思える事柄においても、皆さんの模範は教会の若人の生活に大きな違いをもたらします。服装や身だしなみ、どのように話し、祈り、証し、日々の生活を送るかが、違いを生み出すのです。この中には、どのテレビ番組を見るか、どのような音楽を好むか、インターネットをどのように使うかも含まれます。皆さんが神殿に行くことをとても好むなら、皆さんの模範を重んじる



女性は、
天の御父が
子供たちの幸福と
安寧のために
立てられた計画の中で、
特別な位置を
占めています。



教会の
女性の
生活は、
主がふさわしい人に
霊的な賜物、約束、
祝福を与えて、
「すべて[の人]が、
益を得られるように」
されることを、
力強く証あかししています。

若人も神殿に行くのが好きになるでしょう。服に合わせて神殿のガーマントを調節するのではなく、ガーマントに合わせて服を調節するなら、若人は皆さんが何を大切にしているかを知り、皆さんから学ぶでしょう。

皆さんはすばらしい姉妹であり、偉大な模範です。皆さんは教会の若人を祝福しています。そして主は、それゆえに皆さんを愛しておられます。

信仰の模範

わたしの義理の母カルメン・ライヒ姉妹について、少し紹介します。彼女は、真に選ばれた女性でした。人生で最も困難で暗い時期に、福音を心から受け入れ、苦悩と悲しみから解放されました。

若くして夫を亡くした彼女は、二人の娘とともに古い伝統に縛られた世界から抜け出し、霊性が大いに重んじられる世界に足を踏み入れました。知力と霊力を備えた福音の教えを喜んで受け入れました。宣教師からモルモン書もらい、印が付いているところを読むように言われると、ほんの2、3日で1冊全部を読み終

えてしまいました。彼女は神の御霊みたまによって学んだので、周囲の人々の理解の及ばないことを学びました。彼女はきわめて謙遜けんそんで、賢明な女性だったと言えるでしょう。神から語りかけられたとき、進んで信じる意思と純粋な心を持っていたからです。

彼女は1954年11月7日にバプテスマを受けました。それからほんの2、3週間後、バプテスマを施してくれた宣教師から、証を書くように頼まれました。宣教師は彼女の証を使って教え、人々が真の改心の御霊を感じられるように助けたいと思ったのです。幸い、その宣教師は彼女の自筆の証を40年以上の間大切に保管し、非常に特別な、

愛のこもった贈り物として彼女に送り返してくれたのでした。

御霊から生じた証

彼女が記した証の一部を紹介しましょう。彼女がこれを書いたのは、福音を聞いてほんの数週間後であったことを忘れないでください。宣教師が訪れるまでは、モルモン書やジョセフ・スミス、あるいはモルモン教徒全般について、何も聞いたことがなかったのです。1954年当時、カナダとハワイは別として、アメリカ合衆国以外に神殿はありませんでした。

これはライヒ姉妹の自筆の証を翻訳したものです。

「末日聖徒イエス・キリスト教会の特徴は、ほかの宗教団体には見られないものであり、中でも特筆すべきは、預言者ジョセフ・スミスを通して下された近代の啓示です。

もう一つの特徴は、分かりやすく純粋な言葉で書かれたモルモン書であり、この書物にはイエス・キリストの教会に与えられた指示と約束が記されています。これは、聖書と並んでイエス・キリストが生きておられることを証する、ま

さに第2の証です。

教会員は人格をお持ちの神を信じる信仰によって結束しています。その神とは、父なる神、御子なる神、そして聖霊、すなわち祈りを助け、一人一人を感化してくださる聖霊です。

また、前世、地上の生活の目的、死後の生活に対する信仰も、わたしたちにとって非常に価値があり、特に興味深く、有益です。すべてが明確に提示されており、それによってわたしたちは人生に新たな意義と方向性を見いだすことができます。

肉体と霊をできるだけ完全な調子に保ち、望みや目標を実現できるように、教会は『知恵の言葉』という指針を与えています。これに従うことにより、肉体を健康に保ち、さらに向上させることができます。これはすべて、死んだ後も肉体をそのままの形で再び得るという知識から来ています。

わたしがまったく初めて耳にしたのは、もちろん、多くの神聖な儀式によって家族を永遠に結び固める神殿の業についてでした。これはすべて預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示を通して与えられたものです。」

愛する義理の母カルメン・ライヒは2000年に83歳で世を去りました。

神の娘であるという独特な自覚

教会の女性の生活は、主がふさわしい人に霊的な賜物、約束、祝福を与えて、「すべて〔の人〕が、益を得られるように」(教義と聖約46:9; 9-26節も参照)されることを、力強く証しています。回復された福音の教えを学んだ女性は、自分が神の娘であるというすばらしい「独特な自覚」を持ち、真に、また文字どおり神の娘として「能力を伸ばすように」なります。³人目につかない愛と奉仕の業は言うまでもなく、扶助協会や若い女性、初等協会での奉仕を通して、女性は「シオンの大義を起こして確立する」(教義と聖約6:6)という業を助けるう

えで重要な役割をこれまでも常に果たしてきましたし、それはこれからも変わりません。貧しい者や病める者を世話し、伝道、福祉、人道支援、その他の使命を果たし、子供や若人、成人を教え、ほかにも数々の方法で聖徒の物質的、霊的な福利に貢献しています。

女性には、善をなすための非常に大きな力と、実に多種多様な賜物が秘められ



ているので、人生の状況に応じて、様々な役割を果たすことでしょう。実際、多くの役割を同時にこなさなければならない女性もいます。だからこそ、末日聖徒の女性は教育と訓練を受けるように勧められています。家事を切り盛りし、義にかなった家族を育てる能力を伸ばすとともに、必要な場合には、家庭の外で収入を得る能力を身に付けておくためです。

わたしたちが生きている時代は、教会のすべての女性にとって大いなる時代です。姉妹の皆さんは、永遠の幸福をもたらす天の御父の計

女性は「シオンの大義を起こして確立する」という業を助けるうえで、常に重要な役割を果たすでしょう。



皆さんの
徳高い生活は、
くらやみ
暗闇に座する
人々にとって
光となるでしょう。
なぜなら、皆さんは
完全な福音の
生ける証人だからです。

画において、不可欠な存在です。皆さんは神聖な生得権を受け継いでいます。どこに住んでしようと、真の建国者です。

なぜなら、愛と平安に満ちた堅固な家庭こそが、国家を安定させるからです。姉妹の皆さんにも、兄弟の皆さんにも、そのことを理解してほしいと思います。

姉妹の皆さんが今日行っている事柄によって、回復された福音の原則が、将来、世界の国々にどのような影響を及ぼすかが決まります。そして、福音の光が将来すべての国をどのように照らすかが決まるのです。⁴

わたしたちはよく、女性が将来の世代に与える影響力について話しますが、今日の人々に与える影響力についても過小評価しないでください。デビッド・O・マッケイ大管長は、教会が組織された第一の理由は「今日、人生をすばらしいものとし、今日、心に満足を与え、今日、救いをもたらすため」であると語りました。

「将来、来るべき世における救いと昇栄を楽しむにしている人もいますが、今日という日もまた、永遠の一部なのです。」⁵

想像を超えた祝福

この使命にふさわしく生きるなら、妻や母親、シングルマザー、離婚や死別、未婚など、人生のどのような役割や状況においても、主なる神は、皆さんの想像力をはるかに超えた責任と祝福を、豊かに与えてくださるでしょう。

皆さんの内にある大なる可能性を最大限発揮するまで、向上し続けましょう。しかし、能力以上に求めようとはしないでください。達成できないような目標は立てないようにしましょう。罪悪感を抱いたり、挫折感を持ち続けたりしないでください。他人と比較するのはやめましょう。最善を尽くしてください。そうすれば、主が残りを補ってくださいます。

主に対して信仰と信頼を抱いてください。そうすれば、皆さんや愛する人々の人生で奇跡が起こるのを目にするでしょう。皆さんの徳高い生活は、暗闇に座する人々にとって光となるでしょう。なぜなら、皆さんは完全な福音の生ける証人だからです(教義と聖約45:28参照)。美しい、しかし問題の多いこの地球のどこで生を受けたとしても、皆さんは「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強める」存在になれるのです(教義と聖約81:5)。

愛する姉妹たち、あらゆる祝福とチャレンジを受けながら日々の生活を送る皆さんを、主が愛しておられることは確かです。主は皆さんを御存じです。この世界のどこにしようと、主は皆さんの祈りを聞き、その祈りにこたえてくださいます。この世でも、永遠においても、皆さんの成功を願っておられます。

兄弟の皆さん、神権者として、また、えり抜きの女性の夫、父親、息子、兄弟、そして友人として、主と同じ視点で彼女たちを見ることができるよう。すなわち、永遠に続く影響をこの世に与える限りない可能性を持った神の娘として見

ることができますように。

回復の初期の時代に、主はエマ・スミスに対して、夫である預言者ジョセフ・スミスを通して語り、指示と祝福をお与えになりました。「忠実であって、わたしの前に徳の道を歩み〔なさい。〕……あなたは恐れる必要がない。……この世のものを捨てて、この世に勝る世のものを求め〔なさい。〕……心を高めて喜び……なさい。……そうすれば、あなたは義の冠を受けるであろう。」(教義と聖約25:2, 9, 10, 13, 15)

この啓示について、主ははっきりと宣言されました。「これはすべての者へのわたしの声である。」(16節)

後に預言者ジョセフ・スミスは姉妹たちに語りました。「もし与えられている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんの友とならずにはいられないでしょう。」⁶

これらが真実であることを証します。そして、わたしたちの救い主、主イエスキリストの使徒として、わたしの愛と祝福を皆さんに送ります。■



ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。いくつかの例を以下に紹介します。

1. 「信仰の模範」の項で、ウークトルフ管長が義母のカルメン・ライヒについて紹介している部分を読む。その後、ライヒ姉妹の証^{あかし}を読み、彼女が挙げている福音の原則について話し合う。最後に、善なる

注

1. ヒーパー・J・グラント, *Gospel Standards*, G・ホーマー・グラム編(1941年), 151
2. ゴードン・B・シンクレー「力強く、確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 20
3. “Women, Roles of: Historical and Sociological Development,” ダニエル H・ラドロー編, *Encyclopedia of Mormonism* 全5巻(1992年), 第4巻 1574
4. 「天よりの声聞け」『賛美歌』166番参照
5. デビッド・O・マッケイ, *Pathways to Happiness*, ルウエリン・R・マッケイ編(1957年), 291-292
6. *History of the Church*, 第4巻, 605

影響を与えてくれた義にかなった女性の模範について家族に話してもらおう。

2. 「神の娘であるという独特な自覚」の項から、義にかなった女性の特徴について話し合う。メッセージの中で挙げられている例を用いて、女性が義にかなった影響を与える方法について考える。最後に、メッセージの最後の「想像を超えた祝福」の項を読む。



ある家族の

あるパラグアイ人女性が
新たな信仰を見いだして以来、
福音の奉仕が今や5世代にわたる
家族の伝統となっています。

教会機関誌

ドン・L・サール

ユーロジア・ディアス・サンチェスと夫のデリオ・コスメ・サンチェスの子供たちは、母ユーロジアが支部の初等協会会長として奉仕していたときのことを覚えています。当時、初等協会は週日の午後に行われていました。母は自分で「わたしたちの小隊」と呼んだ近所の大勢の子供たちを引き連れ、毎週長い道のりを歩いて教会に行っていたと、娘の一人は回想しています。教会員であるかどうかにかかわらず、本人が望み、親の許可があれば、だれでも連れて行きました。できるだけ多くの子供たちに初等協会の祝福を受けてほしいと思っていたのです。

ユーロジアとデリオの子供たちは、父デリオが支部会長として奉仕していたときのことも覚えています。日曜日の朝、彼は必ずだれよりも先に教会堂に行き、だれよりも遅くまで残って、すべてが片付いていることを確認してから家に帰りました。当時ウルグアイ・パラグアイ伝道部の管轄だったパラグアイ地方部の最初の地方部会長として召されてからも、同じように献身的な働きを続けました。

サンチェス家の子供たちは今では中年になり、中には孫を

持つ者もいます。彼らが今でも覚えているのは、どんな理由があろうと両親が教会の集会を休まなかったということです。家族は、雨が降っても日が照っても長い距離を歩いて教会に通いました。当時、教会はまだできたばかりで、支部の会員は少なく、家族全員が、レッスンの教師や音楽の指揮、建物の掃除の手伝いなど、数多くの務めを果たしていました。

パラグアイで教会は大きな発展を遂げてきました。今では10のステークと11の地方部があり、約6万6,000人の会員がいます。国内には2つの伝道部があります。神殿着やガーメントを作るビーハイブ衣料工場は合衆国以外では4か所しかありませんが、その1つがパラグアイにあります。

だれもが愛した由緒ある集会所、教会がパラグアイで最初に建てた集会所は、その建物を使用していたワードの名を取って「モロナイチャベル」と呼ばれました。今、その教会堂はなく、その場所には神殿が建っています。パラグアイ・アスンシオン神殿は、「ラ・マンザナ・モルモーナ」(「パラグアイのテンプルスクウェア」のような意味)の中心的存在となっています。

パラグアイの教会員は、教会の発展によってすばらしい祝福を受けています。しかし、古くからの会員は、祖国に今日の教会の基礎を築くために必要とされた犠牲を今も忘れてはいません。

受け継ぎを築く

ユーロジア・ディアス・デ・サンチェスは1960年10月にバプテスマを受けました。以前集っていた教区の司祭は、末日聖徒をやめて元の教会に戻るよう説得しようとしたのですが、彼女が得た証^{あかし}は固く、心が揺らぐことはありませんでした。

その翌月、ユーロジアの母カストリーナが、ユーロジアの娘リデビナとともにバプテスマを受けました。ユーロジアのもう一人の娘リーナもバプテスマを受けたいと思いましたが、結婚したばかりの夫に反対されました。

ユーロジアの夫デリオは1961年1月に教会に入りました。整備士のデリオが職場の同僚に、これからは日曜日に働けないと話す、同僚は簡単に受け入れてくれました。いつもデリ

奉仕の伝統

親族のパーティーに集った
サンチェス家族。
左ページ—
パラグアイ・
アスンシオン神殿



オが熱心に働き、会社に貢献していたからです。同僚は、デリオの決意をまったく残念に思わなかったことでしょう。

デリオ・サンチェスとユーロジア・サンチェス、そしてその子孫の物語は、模範の力が永続することをはっきりと示しています。

「両親の愛と忍耐のおかげで、わたしたちは福音を分かち合いながら生活できました」とリーナは言います。彼女は最初バプテスマを受けられませんでした。が、会員ではないながらもできるだけ忠実に教会で奉仕しました。ついに1986年、そのようなリーナと子供たちの模範を見て、反対していた夫が心を和らげ、彼女は喜びのうちにバプテスマの水に入ることができました。

リーナの姉妹であるリデュビナは、両親が常に福音を分かち合っていたことを回想しています。年老いたユーロジアが現在も住んでいる家は、1970年代の一時期、日曜日に集会所として使われていました。デリオとユーロジアの60人以上の子孫に加えて、キリストのような生活を送った二人の模範によって導かれた20数名が集いました。リデュビナは、両親は正直の模範でもあり、後になって恥ずかしいと思うようなことは決してしないようにと自分たちに教えてくれたと言います。

デリオとユーロジアは親切なことでも知られていました。リデュビナはこう回想しています。家族で食事を始めようとする時、父が近所のだれかのことを思い出しては、「あの人のところには、今、食べ物があるだろうか」と言い、家族を待たせたまま、一人を思いやり、食事を届けさせることがよくありました。

リーナと家族は長年両親の家の隣に住んでいました。リーナの息子、エンリケ・オーヘイダはデリオについてこう語ります。「おじいちゃんはいつも神権者の模範でした。教義と聖約の121章に書かれている資質を持っています。」(教義と聖約121:41-45) エンリケはユーロジアのことをこう言います。「おばあちゃんは、強い信仰と証を持った勇敢な女性です。」デリオとユーロジアは教会員でない多くの人に必要な助けを惜しみなく提供しました。しばらく一緒に住ませたこともあります。二人の模範によって、客人は、家を去るときには教会員となっていました。

デリオとユーロジアの子供たちも、成人し、それぞれの家庭を築きながら、二人の模範に従って数々の教会の召しを果たしました。リデュビナは伝道に出ましたし、祖国パラグアイ

に帰るまで、長年にわたってウルグアイの教会で働きました。デリオとユーロジアの息子シルビオは、少し時間はかかりましたが、両親の模範を見て教会に入り、二人に倣って奉仕しました。後に、一時期アルゼンチンに住んでいたときには、支部を築く助けをしました。

新しい世代

エンリケは、祖父デリオがバプテスマを受けた年に生まれました。教会に活発に集う祖父母やおばたちも多くの時間を過ごしながら成長しました。(エンリケはリデュビナのことを、2番目のお母さんと呼んでいます。) 幼いころ、両親は教会員ではありませんでしたが、「わたしたちきょうだいは教会で育ちました」とエンリケは語ります。

エンリケの父ピセンテは、教会とは一切かわりたくないと思っていました。教会の話をするのさえ嫌がったほどです。子供たちがモルモン書を渡そうとしたときには、文字どおり投げ返しました。しかし、エンリケはこう語ります。「最終的に父の気持ちを変えたのは、わたしたちきょうだいの模範でした。」エンリケの祝福師の祝福には、子供たちの模範によって父親が教会に入ると約束されていました。エンリケと家族は、約束を固く信じていました。

1986年、エンリケの弟が伝道していたとき、父親が心を和らげて、母親のバプテスマを許してくれました。25年間教会に集い、できる限りの奉仕をしてきて、母のリーナはようやく教会員になることができました。しかし父は、そのような道を歩むにはまだまだ程遠い段階でした。父ピセンテ以外は家族全員が教会員という生活がさらに数年続きました。そして2002年のある日曜日の朝、ピセンテは起きるとスーツを着て、教会に行き教えを受ける準備をしました。その後間もなくバプテスマを受け、2003年に夫婦は神殿で結び固めを受けました。

今、エンリケ世代の子供たちは、親の足跡をたどって教会で成長しています。ユーロジアとデリオ夫妻の子孫は、6人の子供、18人の孫(そのうち4人は伝道に出ました)、そして23人のひ孫が教会に行っています。ひ孫たちは何事も、家庭で受ける教えに従って選択しています。

エンリケの19歳の娘、アドリアーナは、人生で誘惑に遭うことは常にあると語ります。彼女も、きょうだいやいとこも、誘惑

に遭うときは「証に従って選択をします。」18歳の妹ビビアンは、友達や知り合いから、なぜたばこやお酒など、ほかの友達が普通に行っていることをしないのかと聞かれるときは、自分たちの標準について説明する良い機会であり、宣教師になる機会でもあると語ります。

ユーロジアのひ孫、19歳のウィリアム・ダ・シルバは、リーナの娘メルセデス・オーヘイダ・デ・ダ・シルバの息子です。ウィリアムは母親と同じように8歳のときにバプテスマを受け、教会の中で成長しました。兄も姉も伝道に出ており、彼も今、ウルグアイ・モンテビデオ西伝道部に奉仕しています。ウィリアムは、家庭で受けた教えのおかげで、自分もきょうだいも、いとも教会に活発であり、友達の多くとは異なる、より強い霊的な土台に基づいて生活できていると言います。「友達やその両親が、ほくたちのことをどれほど信頼してくれているかが分かるのは興味深いですね。」友達の両親は、「ウィリアムやアドリアーナやビビアンのような人が参加する集会や活動なら、行ってもいいよ。何も悪いことは起こらないと分かっているからね」と言うそうです。

標準を保つ

アドリアーナのはいている長いスカートは、かなり上まで入っていたスリットに、布を足して閉じたものです。アドリアーナの母リディア(エンリケの妻)と、おばのメルセデスは、パラグアイの女性にとって、慎み深い服を店で買うのは難しい場合が多いと言います。そのため、サンチェス家の子供たちも、ほかの人々と同じように、既製品に手を加えたり、自分で縫ったりしています。メルセデスの母であり、リディアの義理の母であるリーナは、これまでずっと家族の服を縫ってきましたが、今は若い娘たちも裁縫の技術を学んでいます。

メルセデス・デ・ダ・シルバは、末日聖徒が周囲



にあまりいない環境で育ちましたが、生活が特に大変だとは感じませんでした。「友達はみんな、わたしが教会員であることを知っていて、わたしの信仰を尊重してくれました」と語ります。幸いなことに、パラグアイに一時期あった末日聖徒の学校に通うことができました。「子供たちは、わたしのときよりもずっと難しい時代に生きています。」今の世の中の標準は、以前よりもずっと自由放任になっています。メルセデスと夫のアーネスト・ダ・シルバは、家庭でも高い標準を保ち、上の子供たちにも門限を守らせています。「子供たちと福音についてよく話しますし、家庭の夕べも開いています。それは子供たちにとってすばらしい力になっていますし、本人たちも自覚しています」と彼女は語ります。アーネスト・ダ・シルバ会長は、今年の4月に地域七十人を解任され、今はウルグアイ・モンテビデオ伝道部の会長として奉仕しています。

ダ・シルバ家の息子クリスチャンと娘カレンは伝道中、家に手紙を書き、両親から高い標準を教えられたことと両親の力強い模範があったことに感謝を伝えました。2008年、アルゼンチン

ユーロジア・ディアス・デ・サンチェス(中央)は、1960年、末日聖徒イエス・キリスト教会に家族を導きました。娘のリデュビナ(左)とリーナは、両親の模範を見て教会で奉仕することを学び、同じように奉仕の伝統を子供や孫たちに伝えました。



家庭の夕べに参加する
ユーロジア・ディアス・
デ・サンチェスの
3人のひ孫。
左から——
エドアルド、アドリアーナ、
ビビアン・オーヘイダ。
3人は、
ユーロジアの孫である
エンリケと妻リディアの
子供たちです。

のゴールドバ伝道部から戻ったカレン・ダ・シルバはこのように説明しています。「幼いころから、祖父母も両親も、言葉だけでなく、行いによって教えてくれました。ほんとうに、教えたとおりの生活をしていました。」宣教師として、従順によって祝福が得られることを教える際、家庭で学んだことが役立ったと言います。

最近カリフォルニアのサンバーナディーノ伝道部から帰ったクリスチャンも、自分の生活に対する両親の模範の重要性について、姉と同じように語りました。彼は「両親や祖父母の教えを生活に取り入れたことで、わたし自身の福音の証も強くなりました」と言っています。このことはアルマが語ったように起こりました。クリスチャンはその様子を説明して、まず心の中に場所を設けて種を植え、そして両親から真理を教えられ、それから両親の生活を見て種から良い実がなるということが分かったと述べています（アルマ32：27－43参照）。「わたしは信仰によって、証という木が根を張り、成長し、実がなるまで育て続けたいと思います。」

メルセデス・ダ・シルバは、幼いころ、両親や

祖父母の生活に福音の良い影響が現れているのを見て、「『わたしも大きくなったら、同じようにするわ』といつも思っていました。」

メルセデスの兄弟のエンリケは、福音に従った生活は信仰の中で子供を育てるうえで大切な鍵を与えてくれると言います。「大切なことは3つあります。子供に御言葉を教えること、模範によって教えること、そして子供たちが福音を生き方として身に付けられるように助けてあげることです。」

福音を通して、エンリケ夫妻の子供たちも、パラグアイの末日聖徒の家庭で育ったほかの子供たちと同様、多くの若い人々にはない霊的な根を張ることができるとエンリケは言います。「子供たちの生活には従うべき道、すなわち目的があります」とエンリケは言います。子供たちは永遠を視野に入れた目標を持ち、忠実で従順な両親の助けを得て、その目標を達成する方法を学んでいます。■

わたしはそれが真実であると知っています

ピーター・アモア・オヘナクワ

わたしは子供のころから、教会員がモルモン書について証するのを聞いてきました。「わたしはそれが真実であることを知っています」という言葉は、すべての会員が口にする、ただの決まり文句だと思っていました。その言葉の裏に隠された真実を学んだのは、ナイジェリアへ伝道に出てからのことでした。

ある晩、同僚と家に戻ろうとして、雨でひどくぬかるんだ暗い夜道を自転車で走っていました。水浸しで道路の状態が悪かったために、同僚は自転車ごと倒れてしまいました。服も聖典バッグも、何から何までびしょぬれになり、泥まみれになってしまいました。

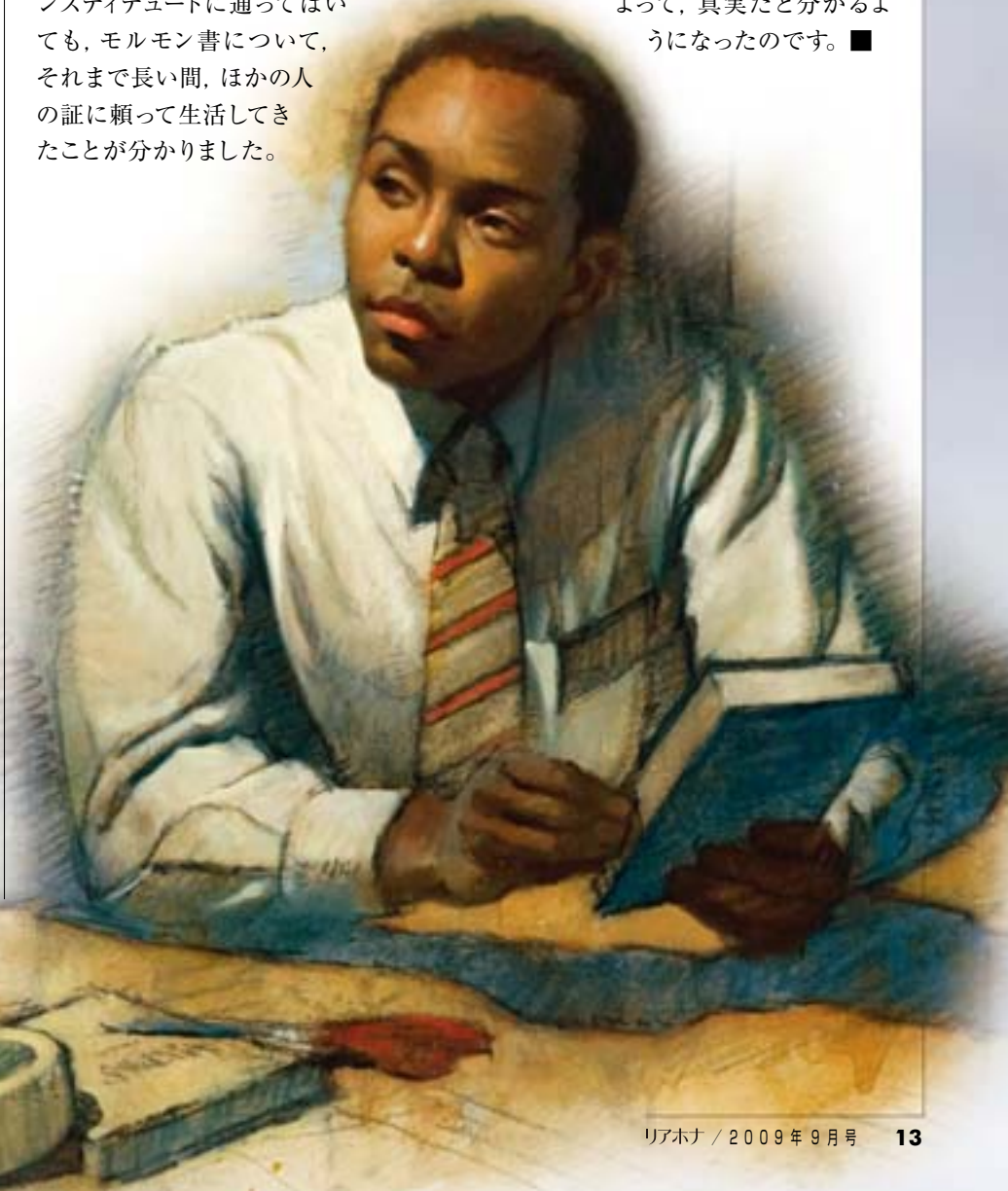
ようやくアパートにたどり着いたわたしたちは、事故で付いた汚れをすべて丁寧なふき取り、乾かしました。ただ、一日伝道した後でバッグの中に残っていた2冊のモルモン書だけはそのままにしておきました。モルモン書はアパートにたくさんあったので、2冊くらいほうっておいてもかまわないだろうと思ったのです。

この出来事があって数か月後、破れてしまった賛美歌集の表紙をどうやって直そうかと考えていると、汚れたモルモン書が棚に置いたままなのを思い出しました。モルモン書の表紙を使って直せばちょうどよいのではないかと思い、表紙を切り取ろうとしたその瞬間、ある思いが心に突き刺さりました。「あなたは、この本について教えているのではないのですか。それをそんなふうに

扱ってよいのですか。求道者はどう思うでしょうか。」座り込んで、長い間思いを巡らしました。そして、表紙を切り取る代わりに、石けん水を使ってきれいにし、乾かし、そっと本棚に戻しました。

この経験から、たとえセミナーやインスティテュートに通ってはいなくても、モルモン書について、それまで長い間、ほかの人の証に頼って生活してきたことが分かりました。

このとき以来、わたしの心はこの書物にもっと近づき、この書物をもっと大切に思うようになりました。心で感じる経験を通してモルモン書を知るときに、その神聖さを確信することが分かりました。モルモン書を読み、深く考え、教えを生活に取り入れることによって、真実だと分かるようになったのです。■



神殿に参入する アバディーン青少年



スコットランド、アバディーンステークの
青少年にとって、
年に1度の神殿参入は、
人生を変える経験となっています。

教会機関誌
ポール・バンデンバーグ



「**神**殿参入には必ず参加するようにして
います」とブリッジ・オブ・ドンワード
のベサニー・ギルモア(17歳)は言
います。「神殿で過ごす1週間ほど、わたしの証^{あかし}
を強めてくれるものはありません。毎年来たい

という気持ちになります。これからの人生で大
切なこと、正しい選択をするのに役立つことを
神殿へ行って学んでいます。」

アバディーンステークのクリストファー・ペイン
会長は、彼のステークの青少年に、毎年実施し
ているプレストン神殿への訪問について尋ねた
ら、きっと皆同じように答えるでしょうと言いま
す。彼は決して大きさに言っているのではありません。

毎年夏になると、アバディーンステークに集う
60人から70人の若い男性と女性は、ステーク
の成人指導者と何人かのヤングシングルアダ
ルトとともに、車で6時間半かけてイングランドの
プレストンへ行き、6日間神殿で過ごします。そ
の間、毎日午前中はバプテスマフォントでバプ
テスマと確認の儀式を受け、午後は様々な活動
や奉仕を精力的に行い、夕方は皆でファイヤ
サイドや聖文研究をします。1週間の締めくくりは
証会です。この証会は普通、4時間ほどになり
ます。しかし、神殿での6日間が何よりもすば
らしいのは、この6日間が1年の残りの359日に
大きな影響を及ぼしていることです。



最善を尽くして主の戒めを守っていれば、
結局のところ、すべてはうまくいくようです。
年に1度の神殿訪問について
話し合うために集まった青少年は、
全員がこの法則に賛成しました。
この青少年にはどこか独特の雰囲気があります。
それは顔を見れば分かります。



年間を通して神殿に入るふさわしさを保つ

神殿がこの青少年の生活にもたらす変化は、一時的なものではありません。長期的な変化です。アバディーンワードのメラニー・ビューズ(17歳)はこのように言います。「神殿を去るその日から、翌年の訪問に向けて準備を始めます。1年間ずっと、ふさわしさを保ちます。次回も神殿に入れるように努力するのです。」メラニーはステークの青少年指導者が行ったプレゼンテーションについて話してくれました。その中に、神殿参入に備える8つのステップを説明したポスターがあります。「わたしはそのポスターを、自分が全力で準備しているかどうか確認するためのチェックリストとして使っています。リストの中には、それまでは実行していなくて、プレゼンテーションをきっかけに始めたことも幾つかありました。例えば、霊的な経験だけを書き留める専用の日記を付けることです。これは今も続けています。」



エルギン支部のネイサン・カミング(18歳)はこう語っています。「ぼくにとって、神殿への備えは伝道の準備でもあります。」ふさわしさを保つという目標に集中するには、毎日の祈りと聖文研究が何よりも大切だと彼は言います。「この前の神殿訪問は、準備のためにいつもより熱心に祈りました。ぼくは時々、自信を持たず、内気な自分に思い悩むことがあります。そこで今回の神殿訪問に備え、もっと積極的に人と交わる自信が得られるようにと祈りました。そういった面があまり得意ではなかったからです。」彼は今、この経験が、優れた宣教師となるうえで将来きっと役立つと確信しています。

アバディーンワードのマイリー・ペイン(15歳)は、ここ数年の間に、神殿への備えが以前より個人的なものになってきたと言います。「わたしたちは、過去数年間、神殿参入に備えるために何人かで一緒に断食しました。」今では自分独りでも進んで断食するようになってきました。「今年、わたしは神殿訪問から多くの祝福を受け、証を強めることができるように、独りで断食しました。」聖文、特にモルモン書を研究する方法にも変化が生じました。次のように話しています。「聖文をもっと深く、もっとよく理解できるように努力しています。特に、バプテスマについて書かれた箇所はよく研究し、理解するように努力しています。」

ベサニー・ギルモアは自分が実行していることについて次のようにまとめています。「神殿訪問から学んだことを日々の生活に生かしています。神殿から戻ったらすぐに、次の神殿訪問について考えます。」



神殿に行って学んだことを考え、また、神殿で感じた気持ちを次回までの1年間ずっと持ち続けるために何ができるか考えます。」

最高に素晴らしいこと

「神殿訪問は1年で最も素晴らしいイベントです。」ブリッジ・オブ・ドンワードのホープ・フレザー(18歳)はこう話します。「みんなで楽しみにしています。」しかし、神殿訪問という1年で最も素晴らしいイベントには、参加する青少年それぞれにとって最も心に残る経験があります。今年の神殿訪問でホープが特に忘れられないのは、ローレルの特別集会でした。「すばらしかったです。」彼女はこう言います。「デートについて、また、デートのときに陥ってはならない状況について話し合いました。そして最後には、お互いに対して感じている感謝の思いを伝え合いました。」それはローレルのアドバイザーにとっても懐かしい思い出となりました。



エルギン支部のジェームズ・ボウカット(18歳)は、神殿の奉仕で最もすばらしかったことは、先祖のためにバプテスマを受ける機会があったことだと言います。ジェームズは神殿に行くまでしばらくの間、自分が身代わりのバプテスマを行う予定の先祖の名前を持ち歩きました。ジェームズはこう語っています。「先祖の名前を読めたので、一人一人をよく知



イギリス・プレストン神殿での日々は、忙しいながらも充実しています。毎日、午前中はバプテスマフォントで奉仕し、午後は奉仕活動やファイヤサイドと多忙なスケジュールが続きます。サッカーなど楽しい活動の時間もあります。



ることができました。彼らは実際に自分の先祖なのだと感じました。また、親族の名前を手に行っていることに誇りを覚えました。幕の向こう側にいる人たちとの強いきずなを感じました。」

マイリー・ペインは、神殿の中で儀式を執行するだけでなく、外の清掃や草取りをして神殿で奉仕できることについてわくわくした様子で話します。「神殿の敷地内で奉仕できてほんとうに幸せでした。また、美しい主の宮をさらに美しくするときに感じた気持ちは特別でした。とてもすばらしかったです。」

「わたしは買い物に出かけずに、友達と過ごしたのがとてもよかったです」とメラニー・ビューズは言います。「神殿の周りで一緒に過ごし、お互いをもっとよく知り、世俗的なことから離れた思い出を作ることができてとても楽しかったです。いちばんよかったのは、時間を共有し、証をはぐくめたことです。」

多くの青少年にとって最も素晴らしい経験は証会でした。ブキャナンワードのジャーニーン・ゴール(17歳)はこう述べています。「長い証会でしたが、まったく苦痛ではありませんでした。まるで10分ぐらいで終わったように感じました。ほかの人たちの証が聞けてよかったです。強められましたし、お互いの距離を縮めてくれました。青少年同士のほんとうに小さなコミュニティですから、互いにもっと知り合う必要があります。それがとてもうまくできる場所が神殿だと思います。」

一致と支援

アバディーンステークの若い男性と若い女性は小さなコミュニティですが、強いきずなで結ばれています。アバディーンワードのサイモン・ロバートソン(18歳)はこう話しています。1年のうちで「会う機会はほとんどありませんが、神殿にいるときは、一つの家族のように感じます。神殿にいる間、いつも御霊を感じられるので、ほんとうに幸せです。ぼく自身は、神殿の中で平安に包まれるのを感じます。福音に従って生活するだけでなく、もっと正しい生活をしようとする決心が強められます。皆が一緒なら何ができるのかわかります。いつもそのような気持ちでいられるように努力したいと思います。」

ジャニー・ゴールはこう述べています。「いちばん近くに住んでいる若い女性の家まで行くのに45分ぐらいかかります。活動やセミナーで顔を合わせるのはほとんど不可能ですから、霊的な強さをずっと維持するのは大変なことです。ですから、神殿に行くのは、霊的な頂点に登るようなことだから、ほんとうに楽しいです。友達との間でお互いに高め合う機会となっています。」

白い衣装に替えてバプテスマと確認を受けるために一緒に待っている青少年もいれば、神殿の尖塔に立つモロナイ天使像が見下ろす中、一緒に聖文を読んでいる青少年もいます。また、神殿の敷地で一緒に雑草を抜いている青少年もいます。皆、一緒に力を合わせています。アバディーンワードのページ・ペイン(13歳)は、全員がびしょぬれになりながら、それまで以上に親しくなった、ある活動のことを思い出しています。「わたしたちは雑草を抜いていました。植木の周りが雑草で覆われていて、数

え切れないほどの雑草を全部抜いてしまわなければなりません。土砂降りでした。土砂降りです。全員が泥だらけになりました。斜面にいたので、移動する度に滑って転んだのです。でも、とても楽しかったです。神殿職員の人たちは、やめようとしないうちに見て驚いていました。みんなで作業に参加したので、みんなが強められたと思います。」

ブリッジ・オブ・ドンワードのイーサン・フレイザー(18歳)は、福音に対して揺るぎない信仰を持つ友人がいて、自分の日常生活も変わってくると言い添えます。彼はこう言います。「すばらしい教会の友人がいて幸せです。たとえ試練に出遭っても、だれかが支えてくれることを知っています。」

違い

ペイン会長は、アバディーンステークの青少年がこれほどまでに特別な理由について、次のように分析しています。彼らは教会に集い、様々な活動に参加し、セミナーに出席し、福音に従った生活を送ろうと一生懸命に努力しています。これらは、過去にペイン会長が属したことがあるどのステークの青少年もしていることです。

ペイン会長はこう語ります。「アバディーンステークに引っ越して来て、神殿まで長い旅をするという経験を初めてしました。今、わたしは神殿訪問を中心に年間計画を立てています。参加する青少年に起こる変化を目の当たりにしているからです。この神殿訪問こそが青少年の生活に御霊を与え続けているのだと思います。彼らは一年中神殿訪問について話します。『神殿訪問に参加しますか。』わたしたちがこう尋ねると、次のような答えが返ってきます。『絶対に参加します。』

神殿に行くこと、つまり聖なる場所に立つことによって、青少年は変わります。それは、その日だけ、その瞬間だけ、その時間だけ、その週だけの変化ではありません。永遠にわたる変化なのです。」■





連綿たる啓示の物語——次第



アール・C・ティンギー長老

1996年から2008年まで七十人会長の一人を務める

こんにち
今日、七十人の歴史を
理解することが
大切なのは
なぜでしょうか。
そうすることによって、
主が御自身の教会と
わたしたち一人一人の
生活みこころに対する御心を
明らかにされる方法を
学べるからです。

18 35年2月8日、ジョセフ・スミスはブリガム・ヤングとジョセフ・ヤングに、ジョセフ・スミスが受けた示現に従って十二使徒および七十人を組織すると告げました(教義と聖約107章参照)。

そのとき預言者はこう語っています。「『ここからそれほど遠くない所にある支部の兄弟たち全員に、来週の土曜日に開かれる総大会に出席するよう伝えてください。そのとき、そこで、諸外国の民に福音の門戸を開く12人の特別な証人を選ぶでしょう。そしてあなたも、(ブリガム兄弟に向かって)そのうちの一人となるでしょう』とジョセフは言いました。……次にジョセフはきわめて真剣な面持ちで、ジョセフ・ヤング長老に顔を向けると、示現が心の中でなおも展開されているかのように、彼の名を呼んでこう言いました。「ジョセフ兄弟、主はあなたを七十人の会長に召されました。』」

二人のヤング兄弟も、聖書に記されているこうした神権の職の存在について知ってはいまし

上、左から——

**1835年2月に聖任された
十二使徒定員会の最初の会員および最初の七十人。
七十人第30定員会の7人の会長と
書記(1890年ごろ)。
七十人第88定員会の会員と
その家族(1897年3月)。**

た。それでもなお、預言者の言葉に「これらの兄弟たちは驚嘆しました。」¹

翌週の土曜日、2月14日に、十二使徒の会員が選ばれ、聖任されました。そして2週間後には、七十人第一定員会の会員も選ばれ、聖任されました。

この神権時代において最初の七十人が召されたという歴史的事実から、二つの点が明らかになります。七十人の歴史に関してとりわけ重要であるとわたしの心に特に思い浮かぶ2点です。(1)七十人の職は聖文を教義上の根拠としていること、そして(2)七十人の役割は十二使徒の使命と密接に結びついていることです。

左上——「バリー・P・フットを使徒として聖任された」ジョセフ・スミス「ウォルター・レーン画



に明らかになる七十人の役割

発展の様子を示す出来事

1835年2月—預言者ジョセフ・スミスが七十人の職の確立を発表し、七十人第一定員会を組織する。

1835年3月—預言者ジョセフ・スミスが七十人の召しと役割に関して指示を受ける(教義と聖約107章参照)。

1836年1月—七十人会長会がカートランド神殿で油注ぎと祝福を受ける。その後、同じ月のうちに、七十人の会員がカートランド神殿で油注ぎと祝福を受ける。

1836年2月—ジョセフ・スミスは七十人第二定員会の会員を選ぶために、何人かの幹部と集会を開く。

1837年4月—七十人の会長たちが再編成される。

1841年1月—七十人の義務が明らかになる。(教義と聖約124:138-139参照)

1844年12月—七十人ホールがノーブーで奉献される。

1846年—聖徒がノーブーを去るまでに、七十人定員会の数がおよそ30に達する。

この二つの重要な点について研究を進めると、これに勝るとも劣らないほど重要な第3の点が明らかになります。それは、主は教訓に教訓を加える方法によって御心を明らかにされるということです。つまり、末日における七十人の歴史は、教会と個人が啓示を受けるのと同じパターンに従っているのです。

1. 七十人の職は聖文を教義上の根拠としている

七十人について最初に言及しているのは、旧約聖書のモーセと「イスラエルの七十人の長老たち」に与えられた指示です(出エジプト24:1)。

主は、モーセが独りで重荷を背負うのではなく、七十人を活用するようにと言われました。「イスラエルの長老たちのうち、……七十人をわたしのもとに集め、……そこにあなたと共に立たせなさい。」(民数11:16)

七十人に正しい方法で権能を与えるため、主はモーセの上にあった「霊」を七十人にも分け与えられました。その霊が彼らのうえにとどまったとき、彼らは預言して、その後も預言し続けました(民数11:25参照)。

新約時代の教会にも七十人の職が存在しま

した。救い主御自身が七十人を召し、指導されました(ルカ10章参照)。そして、十二使徒に与えた指示と同じような指示をお与えになりました(マタイ10章参照)。イエスは七十人を送り出し、「あなたがたに聞き従う者は、わたしに聞き従うのであ[る]」と述べられました(ルカ10:16。1-15節も参照)。

七十人が自分たちの任務について行った報告を読むと、彼らに力のあったことが明らかです。彼らはこう「言った。『主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します。』」(ルカ10:17)

2. 七十人の役割は十二使徒の使命と密接に結びついている

七十人と十二使徒の果たした役割に密接な関連があることは、救い主の復活後にはっきりとしてきます。教会の規模が大きくなったため、十二使徒だけでは人々の必要をすべて満たすことができなくなりました。やもめたちへの日々の支援がおろそかにされていると不平を言う者が出てきたときに、七十人を召すことによって教会の成長に伴う様々な問題に対応しました。十二使徒が自分たちにしか果たせない務めに専念できるように、七十人は重荷の一部を背負ったのです。

「そこで、兄弟たちよ、あなたがたの中から、^{みたま}御霊と知恵とに満ちた、評判のよい人たち七人を捜し出してほしい。その人たちにこの仕事をまかせ、

わたしたち[十二使徒]は、もっぱら^{いのり}祈と^{みことば}御言のご用に^{あた}当ることにしよう。」(使徒6:3-4)

この方式は預言者ジョセフ・スミスを通して回復され、七十人と十二使徒の果たす職務に密接な関連があることは、近代の啓示によって明確に定められました。

- 「七十人も召されて、福音を宣べ伝え、異邦人と全世界に対する特別な証人となる。」(教義と聖約107:25)
- 「七十人は、十二使徒会、すなわち巡回高等評議会の指示の下に主の名において行動し、まず異邦人のために、次いでユダヤ人のために、教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整える。」(教義と聖約107:34)

- 十二使徒は、「福音を宣べ伝え、福音を施すために、様々な召しを果たすに当たって助けを必要とするときには、ほかの人々ではなく、七十人に要請しなければならない。」(教義と聖約107:38)
- 七十人は、「巡回高等評議会すなわちわたしの使徒たちが、わたしの前に道を備えるために彼らを遣わす所であればどこでも、全世界でわたしの名について証する巡回長老のために設けられている。」(教義と聖約124:139)
^{こんにち}今日召されている七十人は一人残らず、大管長会および十二使徒定員会を支援することを大いなる特権であると考えて

います。わたしはそう確信しています。一方で、七十人は教会の成長に伴う様々な問題に解決策を提供します。通常、大管長会の会員は3人、十二使徒定員会の会員は12人だけですが、七十人の位置づけと数には柔軟性があります。



3. 主は教訓に教訓を加える方法によって御心を明らかにされる

ソルトレーク盆地に到着した初期の末日聖徒(七十人も含まれていました)は、幾つもの入植地に分散して行きました。当時、七十人はおよそ30の定員会に組織されていました。距離的な問題から、七十人や七十人の指

導者が本来の定員会に集うことは、不可能ではないにせよ、難しくなっていました。

このような不都合が生じていたため、1883年、大管長会は七十人をどのような形で組織すべきかについて祈り、そして提案書を作成しました。

1883年4月14日、主は提案を受け入れ、次の啓示を与えられました。「あなたが書き記したことはわたしの思いであり、わたしはこれを受け入れる。さらに、……あなたがたは心を騒がせてはならない。また、わたしの教会および神権の組織と管理、わたしの業の完成について心配してはならない。わたしを畏れ、わたしの律法を守るならば、わたしは折々にわたしの選んだ経路を通して、将来におけるわたしの教会の発展と完成、わたしの王国の調整と拡大、そしてわたしのシオンの建築と確立のために必要となるすべての事柄をあなたに明らかにしよう。」²

1883年4月——主が御自身の王国の拡大に関して「折々に」御心を明らかにすると、大管長会に告げられる。

1899年——七十人は教会の教育施設で施されていた宣教師訓練プログラムに参加し始める。

1904年——七十人定員会の数が146に達する。

1936年3月——七十人第一評議会が管理するステーク伝道部を各ステークに設ける。

1953年——七十人定員会または七十人のユニットを各ステークで組織する。

1961年6月——七十人第一評議会に所属する4人の会員が大祭司に聖任される。七十人第一評議会会員に、ステーク会長会を組織あるいは再組織する権限が与えられる。

1964年1月——七十人第一評議会の会員に結び固めの力が与えられる。

1967年——69人の兄弟が十二使徒会地区代表として召される。

1974年3月——大管長会はステーク会長に対して、事前に七十人第一評議会の承認を得ることを条件に、七十人を聖任する権限を与える。

1974年10月——七十人のユニットが廃止され、各ステークで定員会を持つことを認められる。

1975年——十二使徒定員会補助は中央幹部地域管理者として北アメリカ以外の地域を担当する。

1975年10月——七十人第一定員会が中央幹部の定員会として再編成される。

1976年4月——七十人第一定員会の会長は時々交代することを大管長会が承認する。

1976年10月——十二使徒補助および七十人第一評議会の会員は解任され、七十人第一定員会に召される。

1976年10月——ステーク七十人を聖任する権限は、七十人第一定員会の承認を必要としなくなる。

1978年9月——一定の中央幹部に名誉会員の称号を与えることになる。

七十人の歴史に関する研究から、この「折々に」啓示を授けられるという方式が明らかになります。すなわち七十人の召し、職務、そして責任が、聖文に基づいた教義を根拠とし、教訓に教訓を加えて発展してきたのです。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、七十人を組織するに当たって起きた一連の出来事は、「偉大な天の賜物であり、それ自体、啓示の方式であったことを証明することでしょう」と述べています。³

教訓に教訓を加えるこの方式を説明するため、七十人の歴史における重要な展開について少しだけ検討してみましょう。

七十人の組織。1835年2月に預言者ジョセフ・スミスがこの神権時代に初めて七十人を召したとき、全員が「シオンの陣営」の隊員でした。1834年、聖徒を支援するために、オハイオ州からミズーリ州まで行軍したグループです。

七十人のB・H・ロバーツ長老(1842-1933年)は、シオンの陣営に加わった人が召されたという事実から次のようなことが分かると述べています。「このような神の神権の高い職にまで到達する人々は、神の業のために犠牲を払ってきた人々、あるいは大義のために自らの命をさげることすらいとわず、心から喜んで犠牲を払う人々でなければなりません。」⁴

ノーブーにおける成長。聖徒たちがノーブーに住んでいた時期に、「七十人の数は著しく増加しました。……1845年1月1日の時点で、定員会の数は14に達しています。」それから1年後、定員会の数は30にまで増加しました。⁵

ユタにおける分散。聖徒たちがユタに到着した後、七十人はあちこちに分散したため、大管長会は1883年、七十人に対して、各々の住んでいる地域の定員会と交わるよう勧めました。

先にも述べたように、主は大管長会の提案を承認されました。そして、今後も折々に必要な調整について啓示を与えると約束されました。連綿たる啓示の物語は、まだ始まったばかりでした。

ステークおよび伝道部における七十人定員会。定員会数がおよそ500に達していた1953年

4月、大管長会は、定員会との接触がない七十人がいることを憂慮し、36名以上の七十人を有するそれぞれのステークあるいは伝道部に、7人の会長によって管理される七十人定員会を組織することを発表しました。⁶

七十人が36名未満のステークあるいは伝道部には、定員会ではなくユニットを組織し、一人の会長と二人の顧問が管理することとしました。その後、混乱を避けるために、ユニットや定員会は続き番号が付されました。1974年に七十人のユニットを廃止し、各ステークに一つの定員会を組織することとなりました。ステーク七十人定員会の会長は、ステーク伝道部会長を務めました。⁷

それ以前の1936年3月に、伝道活動はステークごとにステーク伝道部として組織されました。このステーク伝道部は七十人第一評議会がステーク会長を通して管理しました。⁸

七十人第一定員会の再編成。連綿たる啓示の物語は1975年10月の総大会で大きな節目を迎えました。スパンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は七十人第一定員会の再編成を発表しました。中央幹部が構成するこの定員会は、徐々にではありますが、70人の会員と7名の会長で組織される予定でした。⁹

1年後の1976年10月の総大会で、七十人第一定員会は、七十人第一評議会と十二使徒補助を加え、拡大しました。第一定員会の会員は全員が七十人の職と大祭司の職に聖任されました。

キンボール大管長は次のように述べています。「この異動によって、啓示された3つの管理定員会、すなわち大管長会、十二使徒定員会、七十人第一定員会が、主により啓示されたとおりに設置されたこととなります。以上の定員会は、現在教会に課せられている

多岐にわたる任務を効果的に処理し、御業の急速な進展への対応を可能にするものです。そしてひいては、主が再びこの地上を訪れ、主の教会と王国を直接管理される日に向かって備えをなすものとなるでしょう。」¹⁰

ステーク定員会の廃止。1986年10月4日、ステーク七十人定員会はすべて廃止され、ステーク内の七十人は、長老定員会の会員となるか、大祭司の職に聖任されました。したがって、七十人の職は、教会の中央幹部のみに限定されることになりました。¹¹

第二定員会の設立。1989年4月1日、七十人第二定員会が創設されました。¹²以来、70歳に達すると名誉会員となる中央幹部の第一定員会、そして任期が5年の中央幹部である第二定員会という二つの七十人定員会が設置されることになりました。

地域幹部の召し。1995年4月の総大会において、すべての十二使徒会地区代表が同年8月付けで解任されることとなり、新たに地域幹部の職が発表されました。(地区代表とはステークやワードの指導者を訓練するために1967年に設けられた教会の召しです。)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)は地域幹部についてこう語っています。「この職に召されるのは、経験豊かな現職の教会指導者あるいは過去に教会指導者として働いた経歴のある人々の中から選ばれた大祭司です。彼らは現在の各自の職業を続けるとともに、自宅に住んで、教会での奉仕としてこの召しを果たすようになります。この召しには確定した任期はありませんが、通常は約6年です。地域幹部は地域会長会との密接な関係の下に働きます。」¹³

地域七十人の召し。2年後の1997年4月、ヒンクレー大管長は地域幹部を七十人に聖任し、地域幹部七十人とすることを



七十人第一評議会とは

預言者ジョセフは、1835年2月28日に七十人第一定員会を組織したとき、同時に七十人第一評議会を組織しました。第一評議会は第一定員会に所属する7人の会長によって構成されました。この評議会は形態を変えながらも1976年まで存続しました。この年に、評議会の会員(前列—S・デルワース・ヤング長老、A・セオドア・タトル長老、ポール・H・ダン長老。後列—ハートマン・レクター・ジュニア長老、ローレン・C・ダン長老、レックス・D・ピネガー長老、ジョン・R・クック長老)は再編成された七十人第一定員会で中央幹部として働くよう召されました。

第一評議会の役割と義務は、長年にわたり、啓示によって変更されましたが、ほかの七十人を管理する責任、七十人に現在与えられている働きをつかさどる責任に変更はありません。

1980年2月—教会本部の各部門で管理ディレクターを務めていた七十人が、七十人会長会に召される。

1984年4月—七十人第一定員会で3年から5年にわたって働く6人の新しい会員が召され、中央幹部の在任期間に関して新しい慣例が設けられる。

1984年7月—七十人第一定員会の会員が、十二使徒の指示の下に地域を管理する地域会長会として召される。

1986年10月—ステーキの七十人定員会が廃止される。

1989年4月—七十人第二定員会が組織され、同定員会の会員は5年間奉仕することとなる。

1991年11月—第一定員会の会員は70歳まで奉仕し、第二定員会の会員は5年で解任されるという方針が定められる。

1995年4月—ゴードン・B・ヒンクレー大管長が、1995年8月をもって地区代表を解任し、地域幹部を召すことを発表する。

1997年4月—地域幹部七十人から成る七十人第三定員会、第四定員会、第五定員会が組織される。

1997年6月—地域幹部七十人が、地域会長会の指示の下、ステーキ会長および伝道部長から成る会員伝道調整評議会を管理し始める。

2001年5月および2002年9月—会員伝道調整評議会が拡大し、ほとんどの教会プログラムや複数のステーキにかかわる様々な問題を協議するようになる。

2004年4月—七十人第五定員会を分割し、新たに七十人第六定員会を創設する。

2004年8月—七十人会長会は十二使徒の指示の下、教会のすべての地域に責任を負うようになる。七十人会長会の会員は本部のおもな部門における管理ディレクターを兼務しなくなる。7人の会長が北アメリカの全11地域の管理を割り当てられる。

2005年4月—七十人第四定員会を分割し第七定員会を創設する。第三定員会を分割し第八定員会を創設する。

2008年6月—大管長会が地域会長会の責任の拡大を発表する。

発表しました(現在は地域七十人と呼ばれています)。以来、七十人の人数および責任が著しく増加拡大しました。

ヒンクレー大管長はこう述べています。「地域幹部は七十人として、啓示に定められているところに従い、福音を説き教え、主イエス・キリストの特別な証人となる召しを受けています。」¹⁴

ヒンクレー大管長は、これらの幹部は定員会の一員としての関係を持つことになると述べました。ヒンクレー大管長は、地域別に七十人第三定員会、第四定員会、さらには第五定員会を組織しました。

その後、地域七十人は(伝道部長と伝道部内のすべてのステーキ会長から成る)会員伝道調整評議会を管理するようになりました。この集会は、後に、調整評議会と改称し、ほとんどの教会プログラムや複数のステーキにかかわる様々な問題について協議するようになりました。

拡大する七十人会長会の義務。2004年4月、七十人会長会の会員は、本部のおもな部門における管理ディレクターの職を解任され、代わって、ほかの七十人たちがそれらの職に就任しました。数か月後の2004年8月、七十人会長会は北アメリカにおける教会の11の地域をすべて管理し、すべての国際地域を管理する十二使徒を支援することになりました。

七十人会長会は、毎週火曜日に十二使徒全員と集会を開くようになりました。七十人会長会が「ほかに別の七十人を選び、彼らを管理」できるので、十二使徒は、七十人の管理を会長会に任せることができます(教義と聖約107:95)。

今日の七十人

七十人の組織と義務にまつわる啓示の連綿たる物語は現在も続いています。大管長会は最近、教会の国際地域を統合し、地域会長会として働く七十人により多くの管理責任を与えました。¹⁵

最初の七十人を聖任したとき、この職が大きく成長して、現在のように全世界に8つの定員会、315名の七十人を擁するまでになると、ジョ



七十人第一定員会および第二定員会(2006年)

セフ・スミスはどれほど理解できていたのでしょうか。わたしは証します。このようになることは主が御存じだったので、ジョセフは知る必要がありませんでした。また、ジョセフが確立したのは、聖文の教義と「七十人の秩序を示す示現」を基にする末日の土台であったことを証します(教義と聖約107:93)。

七十人の歴史には初めから主の手がありました。また、聖文に記された目的に一致させるために七十人の職がたどった発展の一步一步に、主の手がありました。この歴史をなぜ学ぶ必要があるのでしょうか。それはパッカー会長が述べたように、これが「啓示の一方式」だからです。主は教訓に教訓を加えて、七十人に御心を明らかにしてこられました。わたしは主が七十人のために、また主の教会の会員であるわたしたちのために、これからも続けてそうされることを知っています。■

注

1. ジョセフ・ヤング, "History of the Organization of the Seventies" (1878年), 1-2. *History of the Church*, 第2巻, 181, 注で引用
2. ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全6巻(1965-1975年), 第2巻, 354で引用, 強調付加
3. ボイド・K・パッカー, "The Seventy Is an Especial Witness of Jesus Christ" (1987年9月29に行われた説教), 10
4. B・H・ロバーツ, *The Seventy's Course in Theology, First Year* (1907年), 6
5. B・H・ロバーツ, *The Seventy's Course in Theology, First Year* (1907年), 8-9
6. Conference Report, 1953年4月, 51参照
7. 大管長会からの手紙, 1974年10月11日付参照
8. "A New Plan for Missionary Work in the Stakes of Zion," *Improvement Era*, 1936年5月号, 273参照
9. スペンサー・W・キンボール「実践の時代」『聖徒の道』1976年2月号, 34
10. スペンサー・W・キンボール「七十人第一定員会の改組」『聖徒の道』1977年2月号, 40
11. エズラ・タフト・ベンソン「神の性質」『聖徒の道』1987年1月号, 55
12. トーマス・S・モンソン「教会役員の支持」『聖徒の道』1989年7月号, 19
13. ゴードン・B・ヒンクレー「人のためのみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 59
14. ゴードン・B・ヒンクレー「忠実かつ誠実に」『聖徒の道』1997年7月号, 6
15. 大管長会からの手紙, 2008年6月19日付参照

キリストの福音を理解し、福音に生きる



以下の聖句や言葉、または必要に応じて、訪問先の姉妹たちに祝福をもたらす原則を教えてください。その教義について証してください。また、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

どうすれば福音をもっとよく理解し、福音に生きることができるでしょうか。

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老(1917-2008年)——

「教会の忠実な会員も、かしの木のように、福音の基本原則という肥沃な土壌に、しっかりと根を下ろしていなければなりません。単純明解で、基本的な真理を理解し、その真理に従って生活する必要があります。真理を曲解してはなりません。わたしたちのよって立つ土台は、強固で、深く根を張ったものでなければなりません。それにより、誘惑、偽りの教え、逆境、そしてサタンのすさまじい攻撃に、揺り動かされたり、根こそぎにされたりすることなく、しっかりと耐えられるのです。……

わたしたちの健康を維持し増進するために、バランスの取れた食事が必要なように、霊的な栄養も大切です。霊的な栄養は、毎週聖餐にあずかり、毎日聖文を読み、日々個人と家族の祈りをささげ、定期的に神殿に参入することから得られます。わたしたちの霊

は、バッテリーと同じように、充電を繰り返す必要があるのです。」「(『深い根』『聖徒の道』1995年1月号, 81)」

中央扶助協会会長第二顧問 パーバラ・トンブソン——

「姉妹の皆さん。今ほど、女性が責任を受け入れ、強くあるよう求められている時はありません。力と信仰をもって雄々しく真理を宣言する女性が必要です。義の模範を示す女性が必要です。『熱心に善いことに携わる』女性が必要です。天の御父と救い主イエス・キリストを愛し、御二方から求められることを行うという意志が、わたしたちの生活に表れているようにする必要があります。」「(『さあ、喜びましょう』『リアホナ』2008年11月号, 116)」

2ニーファイ31:12——「わたしが従い、わたしが行うのを見たそのことを、あなたがたも行いなさい。」

福音を理解し、福音に生きることで、生活にどのような祝福があるでしょうか。

大管長会第二顧問 ディーター・F・ウークトドルフ管長——

「正しい福音の原則を理解し、吸収し、それによって生活しようと努力するとき、もっと霊的に自立できるようになります。……わたしは主イエス・キリストの使徒として、主が生きておられ、この福音が真実であり、今日この地上で神の子供たちが直面しているあらゆる個人的な問題や、万人に共通する問題に、答えを

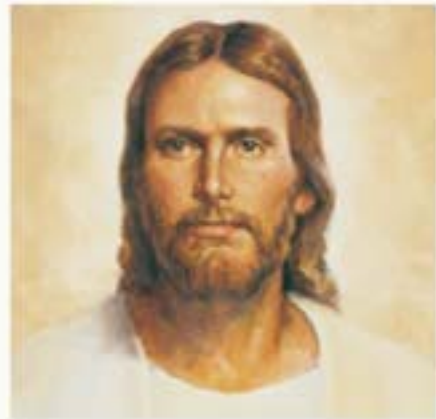
提供するものであることを証します。」「(『キリストのような属性——翼の揚力となる風』『リアホナ』2005年11月号, 100, 101)」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バード長老——

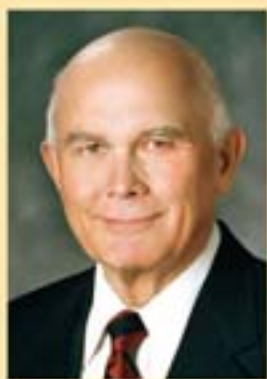
「幸福の計画は神のすべての子供に与えられます。もし人々がそれを受け入れて守るなら、平安と喜び、豊かさが地にあふれるでしょう。現在知られている苦難の多くは、世界中の人々が福音を理解して実践するなら、姿を消すことでしょ。」「(『人生の疑問に答える』『聖徒の道』1995年7月号, 25-26)」

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老——

「御霊がいつもともにあるよう、福音に従って生活しなければなりません。ふさわしい生活をするなら、御霊は常にわたしたちのもとにとどまるでしょう。そうすれば、御霊によって教えることができるのです。……祈り、聖文を研究し、良い友達を持ち、戒めに従順になることを通して福音を実践する理由は、かりにではなく、実際に試しが来るときに、その準備ができていようにするためです。」「(『信仰により教える』『リアホナ』2003年9月号, 10, 14; 『リアホナ』2003年9月号, 20, 24-25) ■



なぜ伝道活動を行うのでしょうか



十二使徒定員会

ダリン・H・オックス長老

伝道活動の基となる教義は、救い主のニコデモに対する言葉の中に含まれています——「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)

ここで言う「神の国」とは、日の栄えの王国のことです。

わたしたちが人々に説き教えるのは、「人々を教会に入れる」ためでも、教会員数を増やすためでもありません。また、単によりよい人生を送るよう人々を説得するためでもありません。多くの聖職者やその他の人々が、悪人を善人に、善良な人々をさらに善くするために布教活動

行っており、わたしたちはこれらの人々に敬意を払うとともに称賛します。そのような活動は大切ですが、わたしたちはそれをしのぐものを人々にもたらそうとしています。人は、この教会の助けがなくても星の栄えでなく月の栄えの資格を得ることができます。しかし、わたしたちが関心を寄せているのは、より高次な行く末です。

伝道活動の目的は、神の子供たちが、救い主であり贖い主である御方により定められた条件を満たせるよう助けることです。わたしたちが人々に説き教えるのは、神の子供たちにバプテスマを施し、彼らがより低い王国にとどめられることなく日の栄えの王国に救われるようにするためです。わたしたちが伝道活動を行うのは、人々にバプテスマと確認の儀式を施すためです。これが、伝道活動の基となる教義です。

回復された福音は、イエス・キリストとその教義についてさらなる知識を与えてくれます。しかし、わたしたちのメッセージが他に類を見ないのは、これらの知識のみによるものではありません。バプテスマは必要不可欠ですが、このことはわたしたちが教える真理が理論上のものではないことを示しています。回復された福音は、教義と儀式から成っています。わたしたちは宣言します。贖い主により定められた条件に従って罪から贖われるためには、バプテスマが必要です。そして、この教会の神権者のみが神から与えられた権能を持ち、水に沈められる行為を永遠にわたる福音の儀式へと変えることができます。わたしたちが説き教えるのは、人々をバプテスマに導くためです。

伝道活動の目的は、神の子供たちが、救い主であり贖い主である御方により定められた条件を満たせるよう助けることです。



神の神権のみが
バプテスマを執行し、
「だれでも、
水と^{うま}霊とから生れなければ、
神の国にはいることはできない」
という神の定めを
満たすことができるのです。

主の犠牲はわたしの罪の代価を支払い、わたしがどのような条件に従うならばその代価により救われるのかを主は定められました。わたしにとってはこれだけで十分な理由になります。

この神権時代の預言者たちが語ってきたように、宣教師が伝道地にいる目的は、人々を救い、改心した人々にバプテスマを施し、神の息子、娘のために日の栄えの王国の扉を開くことです。

主以外にこれを行える人はいません。この教会以外にこれを行える教会はありません。

キリストに従った善良な生活を送っても、これを行うことはできません。

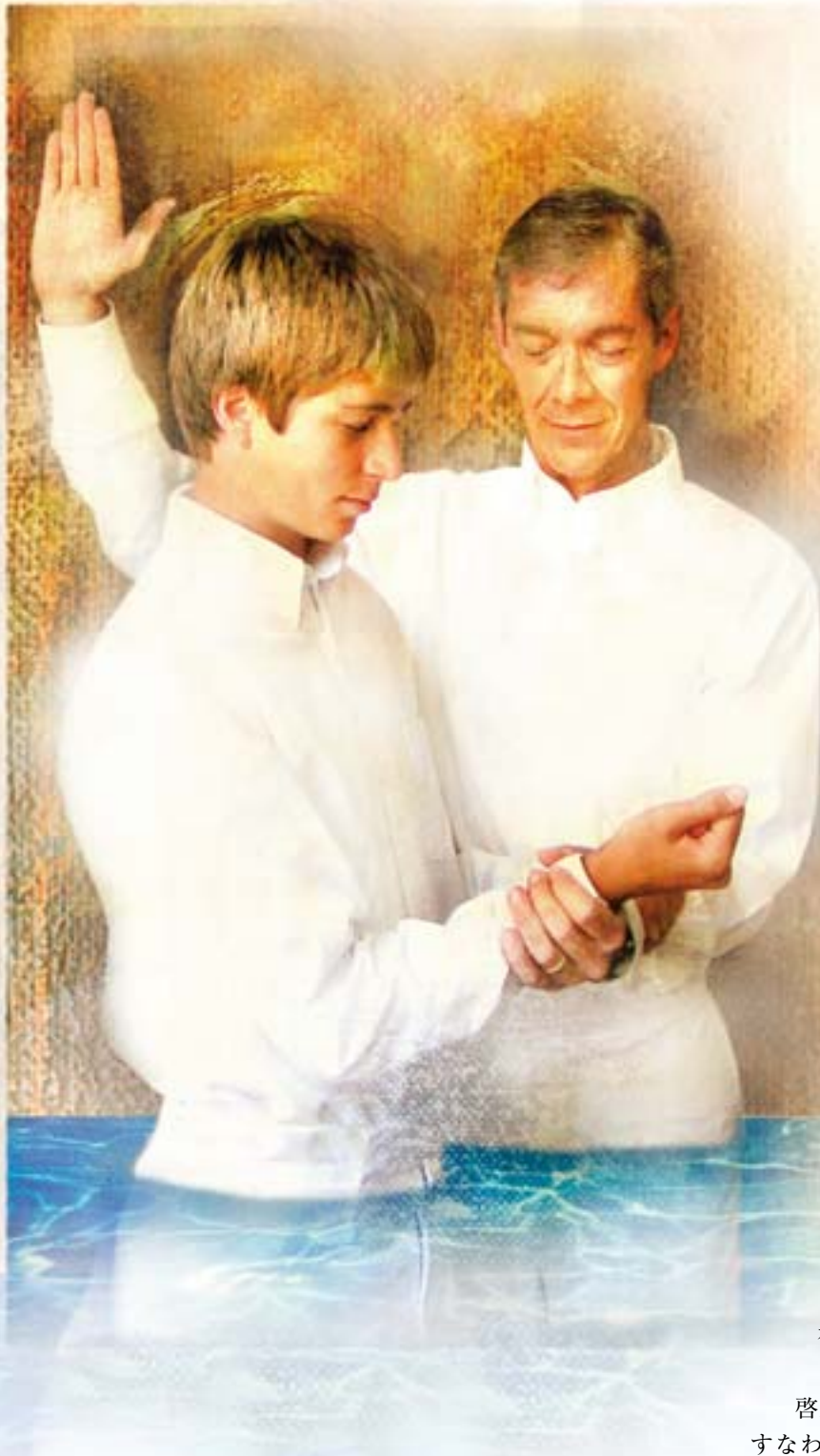
^{あつ}篤い信仰や善い望み、優れた論拠があっても、これを行うことはできません。

「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」という神の定めを満たすバプテスマを執行できるのは、神の神権のみです(ヨハネ3:5)。

伝道活動の基となる教義は、いつの時代にも啓示により与えられてきた次の神の御言葉です。

すなわち、人はイエス・キリストの贖いの犠牲なしに日の栄えの王国に救われ得ず、その贖いの恩恵にあずかるための唯一の方法は、その創始者である御方の指示に従うことです——「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとり〔は〕……バプテスマを受けなさい。」(使徒2:38) わたしたちは、この大義のために働くよう召されているのです。■

1992年6月23日に行われた新伝道部会長セミナーでの説教より



バプテスマは不可欠です。しかし、それはなぜでしょうか。なぜバプテスマはこの方法で、また特定の権能を持つ人から施される必要があるのでしょうか。わたしには分かりません。しかし、罪の赦しはわたしたちの救い主イエス・キリストの贖いの犠牲によってのみ可能になり、その主御自身が何度も繰り返しその条件について述べられたということは知っています。

備えができている人は だれでしょう

友達は福音を聞く備えが
できているに違いないと思いました。
では、一体なぜこの促しを受けたのでしょうか。

アリソン・リー・バートン

高校3年生のころ、わたしは福音を聞く準備のできている人のところへ導かれたいと願い、御霊を祈り求めたことがありました。祈るときに、ある友達のことを思い浮かべていました。それはアシュレー(仮名)という友達でした。アシュレーはわたしの宗教に興味を示していて、すでに末日聖徒の青少年と同じ標準を保っていました。わたしは、アシュレーが福音を聞く時期が来たのだと確信しました。

そのころ、わたしはローレルクラスの会長会で奉仕しており、ビショップリックの青少年委員会の中で、ミューチャルで伝道活動を行うことをビショップに提案するべきだと強く感じました。また、ワードの青少年が会員でない友人をこの活動に招き、ワードで働いている宣教師とともに質疑応答を行うべきだと感じました。ビショップは長老たちとともに積極的に活動の準備を進めてくれ、わたしはこれがずっと求めてきた祈りの答えだと確信しました。これでアシュレーは教会に来て、気楽な雰囲気の中で福音についてもっと学ぶことができるでしょう。アシュレーは質疑応答に参加したら、きっと御霊を感じ、宣教師のレッスンを受けたくなり、1か月ほどでバプテスマを受け、教会員として確認されるに違いない、と思いました。

さて、わたしは次にアシュレーをこの活動にどのように誘うかについて祈り始めました。主の手に使われる者となって働き、主の計画と福音を、受け入れる準備のできている人に紹介できるように祈りました。学校でアシュレーを活動に誘うと、アシュレーは「行ってもいいか両親に聞いてみる」と言いました。

その日の午後、わたしはアシュレーから電話をもらいました。アシュレーの両親は「もちろん行ってもいいよ」と言ってくれたそうです。そのうえ、こんな話をしてくれました。アシュレーのお父さんは結婚する前に二人の末日聖徒のルームメイトと住んだことがあり、二人の生き方にとっても感心したそうです。わたしはとてうれしくなりました。なぜなら、思いつく唯一の障害は、アシュレーがほかの宗教について学ぶことをアシュレーの両親が許してくれるかどうかだけだったからです。

わたしは、今度の伝道活動について祈り続けるうちに、自分が主の手に使われる者となっており、ビショップリックの青少年委員会を受けた促しに従って行動したことを主が喜んでおられるという、穏やかな確信をまた感じました。わたしは大きな期待に胸をふくらませながら活動の日が来るのを待ちました。アシュレーとわたしはもう何年も友達で、アシュレーに福音を紹介し、そしてもちろんアシュレーが改宗するに当たって一役買えることに胸を躍らせていました。

活動の日の朝、アシュレーから電話がかかってきました。アシュレーは、気が変わったので活動へは行かない、と言いました。わたしはひどく落ち込み、頭が混乱しました。アシュレーのためにずっと祈ってきましたし、アシュレーは準備ができていると確信していました。伝道活動に没頭したのはほかでもないアシュレーのためだったのです。また、わたしは恥ずかしい気持ちもしました。活動を計画する段階で、わたしは友達のアシュレーが福音を学び受け入れる準備ができて





アシュレーに違いないわ!
知人の中で、
彼女こそ最も福音を
受け入れそうに
見えました。

いるとみんなに断言していたのです。

落胆して部屋で泣いているうちに、わたしはどんどん自信を失い始めました。アシュレーのことで勘違いをしていたのだとしたら、宣教師による質疑応答という活動を思いついたのもほんとうは霊的な促しではなかったのかもしれませんが。10代の若者にありがちな不安と怒り、自己憐憫、失意に取り巻かれたわたしは、その活動を欠席することに決めました。

数週間後、学校の図書室を歩いていると、友達のブライアンから「ぼくのパプテスマ会に来てくれない?」と言われました。その年はブライアンと同じクラスを取っていなかったのですが、ブライアンと会うのも話をするのもとても久しぶりでした。その前の年は、歴史の授業で席が隣になり、クラスの研究課題を一緒にしました。先生からまたま割り当てられたテーマは、「ジョセフ・スミスとモルモン教徒」でした。調査を進める際にブライアンがそのテーマにとっても興味を示したことを覚えています。でも悪ふざけをするのが好きで、「君のお母さんは何番目の奥さんだ」とか「週末に楽しいパーティーがあるんだ。おっと、君はモルモンだったね。それじゃあ一緒に行ってもつまらないなあ」などと言っていました。それで、初めブライアンのパプテスマ会に招待されたときにも、わたしの宗教をだしにした冗談と片付けてしまいました。ブライアンは、こんな「厳格な標準」を持った教会に加わる準備ができていないように見えなかったのです。

ところが、次にブライアンの口から出て来た言葉を聞いて、このほんの数週間に彼の身にめまぐるしくいろいろな出来事が起こったことを知り、わたしは驚きました。ブライアンの説明によれば、教会員であるクラスの友達が、教会で行われる質疑応答の活動にだれかを誘っているのを耳にしたそうです。招待された人が

断ったので、ブライアンは代わりに自分が行ってもいいかと尋ねました。活動の後、ブライアンはすぐに宣教師のレッスンを受けるようになり、モルモン書を読み、モルモン書について祈りました。そして、モルモン書が真実だと分かりました。ブライアンがバプテスマを受けるというのはほんとうだったのです。そして、「もしよかったらぜひ来て」と言ってくれました。「何しろ、初めてぼくにジョセフ・スミスとモルモン教徒について教えてくれたのは、君だからね。」

わたしは穏やかな驚きに包まれながら、主がわたしの祈りを聞いてくださったことに気づきました。主はわたしを主の手に使われる者としてくださいました。そして、わたしは福音を聞き受け入れるよう主が備えてくださった人を見つけることができたのです。わたしは、ブライアンを宣教師に会わせることなど考えてもみませんでした。ブライアンは、アシュレーとは違って、準備ができていようには見えなかったからです。

へりくだる気持ちに満たされたそのとき、御霊から受けるすべての促しに従って行動することがどれほど大切に気づきました。それからアシュレーが福音を受け入れる準備ができるように祈り続けていますが、わたしはアシュレーに福音を伝えようとしてもたらされた思わぬ結果から大切な教訓を学びました。主がわたしたちに与えられる促しには常に目的がありますが、わたしにはその目的を知る必要も億測する必要もありません。その代わり、確固として、決然とその促しに従って行動することが、わたしに与えられている責任なのです。伝道の機会を求めて祈り、促しに従って行動し、自分の思いを押し通そうとするのではなく主の御心を受け入れるなら、さらに神の手に使われる者となり神の王国を築く助けをすることができます。■

わたしたちは友達から影響を受けることがあります。
しかし、わたしたちが福音に従って生活するなら、わたしたちも友達に影響を与えることができます。

友はあなたに似た者になる

ホセ・マリア・マルケス・ブランコ

模範によりクラスの友達を変えた兄を、わたしはいつも立派だと思ってきました。兄との友情を通して、友達により善い人になりました。兄の模範のおかげで、「友は慎重に選べ。あなたは友に似た者になるのだから」という格言はまた、「友は慎重に選べ。友はあなたに似た者になるのだから」という意味も持ち得ることをわたしは知りました。

学校で、わたしはいつも同じ仲間と仲良くしていました。でもある年、転入生がやって来ました。わたしとは違って、彼は人気者でした。ところが、なぜかわたしは彼の友達になりました。それから数か月のうちにどんどん仲良くなり、わたしたちは親友になりました。

わたしはいつも学校が終わるとすぐセミナーに行っていました。ある日、彼はわたしが毎日どこへ行っているのか尋ねました。わたしは、教会についてきちんと説明しようと思いました。しかし、彼の表情から、そのように話すのは最善の方法ではないと思いました。それで、あまりしつこく話さないようにしました。

数か月後、わたしが彼やその他の友達と家で宿題をしていると、長老たちがやって来ました。そこで、わたしは教会について少し話してくれるよう長老たちに頼みました。彼は長老の話に興味を示しました。彼は、わたしの生活の何かが、彼やほかの人々がしていることと違うことに気づいていて、その理由を知りたいと思っていたのです。それから彼は、教会やミュージカル、セミナーに来るようになり、教会の友達は皆、わたしと似ており同じ原則に従っていることに気づきました。そして間もなく、バプテスマを受ける決意をしました。

バプテスマ会で、ビショップは証をするよう友達に頼みました。友達は立ち上がり、こう言いました——「わたしが今日ここにいるのは、ある友達の^{あかし}のおかげです。その友達は、ほかの人たちとは違ってい

ました。ほかの人々も皆さんの中にある違いに目を留めることができるよう願っています。」

自分と似ている人ともそうでない人とも、友達になる努力をすることができますように。だれがわたしたちのように主の真の教会の会員になる可能性を持っているかは、わたしたちには分からないからです。■



第1にバプテスマを受ける



デビッド・B・ヘイト長老は、28年間にわたり十二使徒定員会の一員として働きました。1976年10月の総大会の説教の中で、ヘイト長老は、ほかの人々に福音を伝えるよう末日聖徒を励ました。そうすることによってほかの人々が「永遠の家族」の祝福を享受できるようにするためです。

何百万という天の御父の子供たちについてはどうでしょうか。彼らは、もしバプテスマを受けるならば、永遠の家族へと通じる数々の祝福を受けることができますのです。

十二使徒定員会

デビッド・B・ヘイト長老(1906-2004年)

家庭の夕べのテキストの第1課は、実にすばらしいレッスンです。その課題は、「家族は永遠に」で、テキストには、テーブルの上に結婚証明書、神殿推薦状、神殿の写真、バプテスマの証明書などを出すようにという指示があります。

教会員ならば、テーブルの上に置かれた物が

すべて、神殿結婚と「永遠の家族」に関係があることが分かるでしょう。今日は、テーブルの上に出された物の一つ、バプテスマ証明書について特にお話します。

「永遠の家族」となるには、夫婦がバプテスマ証明書を持ち、ふさわしい教会員として神殿推薦状を受け、日の栄えの結婚を示す結婚証明書を持つことが必要です。では、何百万という天の御父の子供たちについてはどうでしょうか。彼らは、もしバプテスマを受けるならば、永遠の家族となるよう導く数々の祝福を受けることができますのです。

教会の専任宣教師の働きにより、バプテスマの水に導かれる人々の数が全世界で増加しています。しかし、それに教会員の熱心な協力が加わったら、成功はその何倍にもなるでしょう。大半の教会員は福音を友人や隣人に積極的に紹介しようとしません。大勢の教会員が



教会の発展や全世界の伝道活動の成功について胸を張って語るのに、知人や隣人を導くことはしていません。帰還した伝道部会長に、「どのようにすればあなたの伝道部でもっと多くの人が改宗していたと思いますか」と聞くと、異口同音にこういう返事が返ってきます。「教会員が宣教師に協力し、長老たちを受け入れるよう友人や隣人を備えてくれていればもっと成功したでしょう。」

わたしたちは自分の責任を忘れてしまったのでしょうか。主の言葉を忘れてしまったのでしょうか。

「見よ、わたしは、人々に証し警告するのためにあなたがたを遣わした。警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならぬ。それゆえ、彼らは弁解の余地がな[い]。』(教義と聖約 88 : 81 - 82)

宣教師は、人々をバプテスマに導くために秩序と靈感により福音を教える訓練を受けています。宣教師にとっては一刻一刻が貴重であり、実りに至る時間でなければなりません。皆さんは、宣教師が1,000軒訪問してもバプテスマを受けるのはそのうち一人だけであることを御存じでしょうか。ところが、教会員の家で教えた場合は、1,000人に対し600人の割合でバプテスマに導くことができるのです。教会員が確信をもって一緒に伝道するならば、改宗者は600倍以上に増えるのです。

これらのすばらしい主の若い僕たちは、皆さんのワードや支部に以前にも増して大勢います。宣教師は大きな希望と願いを持ち、さらによく訓練され、備えられて出て行きます。この福音を受け入れた家族は皆、それを隣人に伝える責任があります。ただ自然に、真心を込めて隣人に愛を示すだけで、人々は福音に対し興味を抱きます。

あるとき、飛行機の中で、わたしの友人が一人の女性と言葉を交わしたときのことです。彼は、「先祖のことを知りたいたので、遠い親戚の者に会いにサウスカロライナのアンダーソンへ行くといい」と言いました。そして隣に座っている女性に、「ずっと昔に亡くなった先祖になぜ興味があるのかとお思いでしょう」と言いました。

「そうですね」と女性は答えました。



友人が、隣り合わせた乗客にこう尋ねました。「ずっと昔に亡くなった先祖になぜ興味があるのかとお思いでしょう。」

「先祖のことをいろいろ調べて、神殿で儀式ができるようにするのです。救い主が十字架上で亡くなられて体が墓にあった3日間、救い主がどこに行かれたか御存じですか。」

「いいえ。どこですか。」

「使徒のペテロが言っていますよ。キリストはノアの時代に不従順だった霊が獄に入れている所へ行って福音を説かれたのです。」

そしてこう続けました。「もしその霊たちが聞いても無駄に終わるとしたら、救い主がそんな人たちに3日間も伝道されると思いますか。」

「されるはずがありませんね。そういうこと、今まで考えたこともありませんでしたわ。」彼女は言いました。

友人はさらに死者のためのバプテスマと復活について説明しました。まず、パウロの言葉を引用しました。「そうでないとするれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとするれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」(1コリント 15 : 29)

「あなたが結婚されたとき、『死が二人を分かちまで』と言われたのを覚えていらっしゃいますか。どちらかが亡くなれば結婚の誓いは終わるのです。」

女性は、「そうですね。でもわたし、一度もそんなふう考えたことがありませんでした」と答えました。



あ あなたの警告の声は聞かれます。主はあなたの働きを祝福してください。あなたは友人がバプテスマの水に入る姿を見るでしょう。

彼は続けました。「わたしの妻は先月の初めに亡くなったのですが、彼女は永遠にわたしの妻です。地上で行われた結婚を天でも結ぶ神権という権能を持った人に司式をもらったのです。わたしたちは永遠に結ばれているのです。それに子供たちも永遠にわたしたちの子です。」

着陸しようというときに、友人は女性に言いました。「なぜ今日あなたとわたしが出会ったと思いますか。あなたも福音のことを知って、御主人や子供たち、子孫と永遠に結び固められ、永遠の家族になるためです。」

この出来事があったからすぐ、彼はリグランド・リチャーズ長老の『不思議な驚くべき業』という本に自分の名刺をはさんで女性の家に送りました。また、女性の名前はやがて、ペンシルベニアのその町で伝道している専任の姉妹宣教師に知らされました。宣教師たちはその女性と初めて会った後、このような手紙を書いてきました。「デービス夫人は大変親切でした。兄弟が彼女にお会いになったときに、目の輝きをご覧

になったでしょう。〔飛行機で出会った男性は〕自分が愛する人たちと来世でも一緒にいられるという確信と証を述べることによって、とても豊かな種をまいてくださいました。わたしたち宣教師は平安を感じました。あの家族は備えられているので、わたしたちの働きに必ず主の力添えがあると感じました。〕

さて、皆さんにお尋ねします。「永遠の家族」となるためには、バプテスマ証明書、神殿推薦状、結婚証明書が不可欠であるということを知っていますか。そして、あなたの友人や隣人がこの中でまず得なければいけないのは、バプテスマ証明書です。

主はこのように宣言されました。

「すべての人は悔い改めて、バプテスマを受けなければならないからである。

あなたがたの手によって、わたしは人の子らの中に驚くべき業を行い、彼らの多くに罪のあることを自覚させ、彼らが悔い改めて、わたしの父の王国に来られるようにしよう。」(教義と聖約18:42, 44)

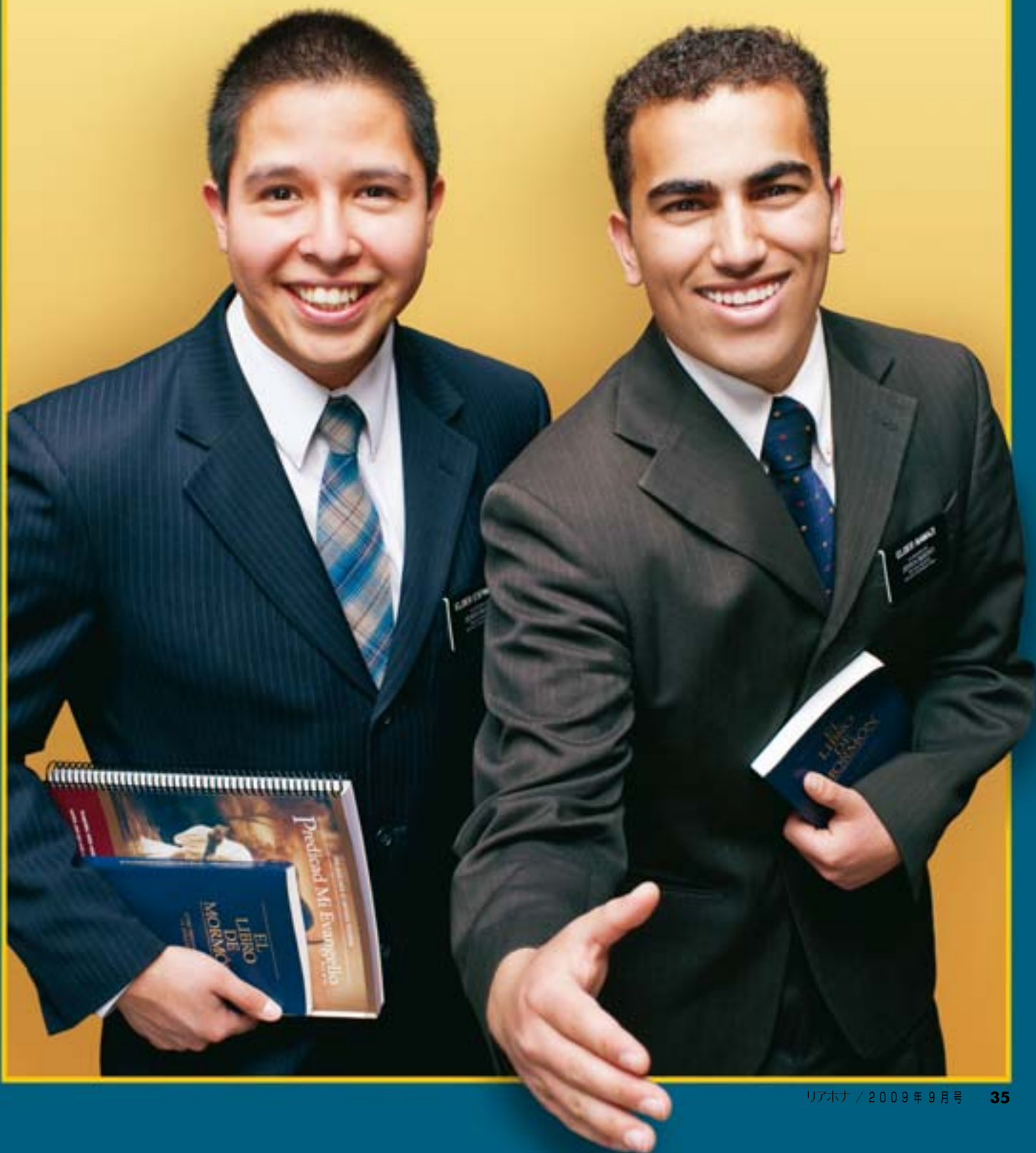
わたしは約束します。家族が一つとなって、良い成果を得られるよう祈り、フェローシップする家族を決め、目標と達成する日付を決め、必要なことをすべて行うよう決意し、そして断食と祈りを繰り返すならば、あなたの警告の声は聞かれます。今は刈り入れの時、集合の時代です。主はあなたの働きを祝福してください。あなたは友人がバプテスマの水に入る姿を見るでしょう。

あなたに接する人々は、あなたの言葉は忘れても、あなたから受けた印象は決して忘れません。家族は永遠です。心からへりくだり、主なる救い主、イエス・キリストの御名によってこのことを証します、アーメン。■

1976年10月の総大会説教から。引用、句読点、段落分け、大文字はほかの記事と統一させるために変更しています。

手をお貸ししましょう

わたしたち専任宣教師は、福音を教える備えができています。教えたいと思っています。教える力もあります。どうぞあなたの友人を紹介してください。(教義と聖約18:16参照)



4つの説教が 4人の人生を変えた

毎年4月と10月に、何百万人もの末日聖徒が
主の僕に耳を傾けます。

以下は、長年にわたり総大会から
影響を受けてきた4人の教会員の話です。

祝福は確かにやって来る

夫は修士号を取って間もなく、博士号を取るためにまた学校に行くことを考え始めました。わたしたちはこの将来の計画に圧倒される思いがしました。修士号を取るのもとても大変だったからです。わたしたちには二人の幼い子供があり、早く良い仕事に就き、できれば家も欲しいと思っていました。

その年の10月の総大会で、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が、大学院に行くために妻と幼い子供を連れてコネティカット州に引っ越した経験について話しました。わたしたちも大学院のためにコネティカットに引っ越しました。それからホランド長老は、自分たちの持ち物をすべて小さな車に詰め込んだという話をしましたが、わたしたちもまったく同じようにしました。またホランド長老は、旅が始まると1度ならず2度までも車がオーバーヒートし故障したと語りました。何とわたしたちの車も2度故障したのです。

ホランド長老は最後に、30年前に車が故障した場所を最近になって安全な車で通りかかったときのことを話しました。まだ若い父親であった自分の姿が心の目に映り、ホランド長老はこう声を掛けました——「あきらめるな。やめちゃいけない。……助けも得られるし幸せにもなれる。……顔を上げて。必ず良くなる。神を信頼して、祝福が来ることを信じるんだ。」¹ ホランド長老の経験のおかげで、わたしは理解され愛されていると感じました。ホランド長老の模範は、夫がさらに教育を受けることがわたしたちの

家族に対する主の御心だという霊的な証^{みこころ}を求める勇気をわたしにくれました。それから5年後、そして、さらに二人の子供を授かった後に、夫の論文が仕上がりました。大学院生活は確かに困難なものでしたが、わたしたちは幸せでした。わたしたちは主の御心に従い、主は肉体的、霊的、経済的にわたしたちを祝福してくださいました。

その総大会以来、わたしはよくホランド長老のお話を思い出します。神を信頼しようと努め、神の預言者や使徒の勧告に従うならば、祝福がほんとうにやって来ることを学びました。■

アメリカ合衆国メリーランド、メリнда・マクラフリン



わ たしの家族は、
ホランド長老と
同じような
経験をしました。
ホランド長老の
「祝福が来ることを
信じる」という
促しを聞いて、
自分が理解され
愛されていると
感じました。

祖母の良さが分かりました

子供のころ、わたしは祖母に手紙を書くのが大好きでした。遠方に住んでいた祖母と1年に2度以上会うことはめったにありませんでした。しかし10代になるとだんだん忙しくなって、手紙を書かなくなり、祖母との関係は徐々に薄らいでいきました。祖母が2、3日遊びに来るときには、時折祖母に質問をしたり言葉をかけたりするくらいで、心からの会話を交わすことはまれにしかありませんでした。16歳になるころには祖母の様子はほとんど分からず、どうやって話しかけたらいいか分かりませんでした。

あるとき祖母が我が家を訪れ、もう帰るとい日にわたしが独り台所で晩御飯の用意をしていると、祖母がやって来て座りました。わたしはあいさつをしましたが、何と言葉を続けてよいのか分かりませんでした。祖母はわたしと話したいと思いい機会をうかがっていたのですが、何の共通点もない75歳の年老いた女性とどうやって会話を始めたらよいのでしょうか。

わたしは、自分が作ろうしている料理について話しましたが、その話題は長くは続きませんでした。やっと、祖母がわたしくらいの歳のころにどんな生活を送っていたかを尋ねました。祖母は仕事や社会活動について語り、それから祖父と出会い恋に落ちたときのことを話してくれました。10代のころの祖母の生活や望みは、自分のものとあまり変わらないものだったことに気づきました。

数か月後、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長が総大会で祖父母について話しました。「^{よわい}齢を重ねた男女」という話の中で、パッカー長老は年配の教会員が与えることのできる知恵と導きについて語りました。このテーマは、祖母とわたしの関係について考えさせてくれました。そしてわたしは、貴重な友情を失いかけていたことに気づきました。

わたしはまた祖母に手紙を書くことにしました。やはり何を書いたらいいかよく分からなかったので、仕事や友達、家族、そして自分がしていることについて書きました。祖母は毎回返事をくれ、ほかの親戚や祖母の庭について、また日常行っていることについて書いてくれました。次に会ったときは、祖母と話すのが以前よりも簡単になっていました。

祖母のことをもう一度知りたいと思っていたときにこの総大会の話聞いたことに感謝しています。パッカー会長の言葉を通して、自分がこれまで「かけがえのない経験と知恵と靈感の宝庫」²を見送ってきたこと、そして祖母がまさにそのようなかけがえのない人であることに気づきました。今では、



総大会を優先する

「総大会を生活の中の優先事項にすると、今決心してください。注意深く耳を傾け、与えられる教えに従うと決心してください。話を何度も聞いたり読んだりして、勧告をより理解し、従ってください。そうすれば、地獄の門が皆さんに打ち勝つことはなく、皆さんの前から闇の力は追いつかれ〔る〕ことでしょう〔教義と聖約21：6参照〕。」

七十人 ポール・V・ジョンソン長老
「総大会の祝福」〔リアホナ〕2005年11月号, 52

このすばらしい女性の良さを知っています。そして、祖母の模範と友情から祝福を受けています。■

アメリカ合衆国ユタ州、ローラ・A・オースティン

自分で知りました

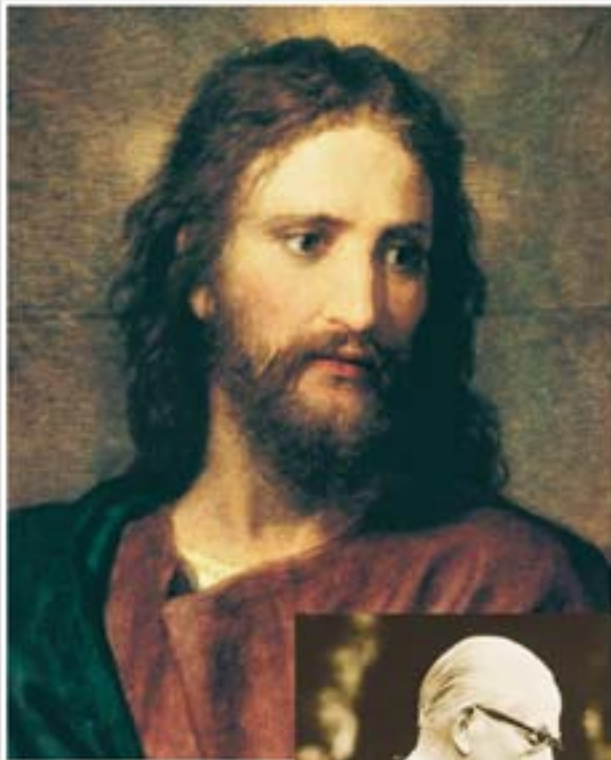
伝道に出たばかりのころのわたしの証は、救いの計画とモルモン書についての知識に関するものしかありませんでした。わたしは、自分の証が自分の期待ほど深くないことに気づいていたため、宣教師として力不足を感じていました。

当時のほとんどのフランスの教会員と同様、わたしは総大会の放送を見たことが一度もありませんでした。わたしたちはいつも再放送を見るために集まり、通訳を通してフランス語で総大会の話をお聴きしていました。しかし、今やウェールズで英語を使って伝道しているわたしは、預言者であるエズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)の声を直接聴こうとしていたのです。

大会が始まると、地元の家衆はソルトレーク・シティーのタバナクルに集まった会員とともに歌いました。わたしも一緒に歌っていると、すぐに圧倒的な喜びと一体感に驚嘆しました。その気持ちは、わたしがイエス・キリストの教会の会員であることを証していました。

座っていると、ある考えが浮かんできました——「ベンソン大管長が主の預言者であることを確信させてほしいと主に頼んでみてはどうだろうか。」

わたしは、「神に問う」ことができることは知っていましたが(モロナイ10：4)、ひょっとすると自分の質問は主の感情を害



わ たしは、
これから語る
人物が
主の預言者であることを
証してくださいと
主に頼みました。

するのではないかと心配しました。少し考えてから、わたしはとにかく試してみることにしました。頭を垂れ、これから語る人物が主の預言者、聖見者、啓示者であることを証してくださいと頼みました。まもなく、とても大きな平安と幸福感が心に満ちてきました。わたしは頭を上げ、目を見開き、ベンソン大管長がモルモン書について証するのを聴きました。

わたしはそれ以来、選ばれた預言者を通して主が教会を導いておられることを知っています。その証を得た結果、わたしは新たな目標を持って総大会を後にしました。そして、その目標に到達するかどうかは自分にかかっていること分かりました。わたしはこれまでとは異なることに焦点を置いて伝道し、次の総大会を楽しみにするようになりました。また、

教会機関誌が届き主の僕の神聖な言葉を読むのを、首を長くして待つようになりました。■

フランス、ティエリー・ホッツ

愛していることを伝えましょう

2007年10月の総大会で、七十人会長会のクラウディオ・R・M・コスタ長老は、特に家族に対して、今日できることを明日に引き延ばさないということについて語りました。³ お話の最後に、ノーマ・コーネット・マレックの詩を基にした文章が読まれました。コスタ長老の話と詩の言葉が心に深く浸み込み、両親やきょうだい、友人に常に愛を伝えることを始めるよう促しを受けました。

もちろん、その総大会の話聞く前にも家族や友人を愛していましたが、「愛しているよ」と伝える習慣はありませんでした。少なくとも、毎日伝えてはいませんでした。もしかすると、わたしの家族や友人には定期的にわたしからそのような特別な言葉をかけられる必要がほんとうにあるのかもしれませんが。初めのうち、どう思われるか分かりませんでした。前向きな反応をしてもらったのでこの習慣を続けよう決めました。それから数か月にわたり、互いの関係が強まっていくのを目の当たりにしました。それはおもにコスタ長老の言葉を心に留めたおかげです。

現在、わたしは故郷のコスタリカから何千マイルも離れた場所で専任宣教師として働いています。家族に会えなくて寂しいですが、大丈夫です。家族がわたしを愛してくれていることを知っていますし、家族がわたしに愛されていることを知っていると分かっているからです。思い切って自分の愛を伝えた(そして今も伝えている)ので、わたしは穏やかな気持ちを感じています。

神から召された指導者の話を定期的に聞く機会があることに感謝しています。指導者に従うなら自分や自分の愛する人々の生活が祝福されることを知っています。■

アイダホ州ボイシ伝道部、ウーゴ・リノ・リベラ・メナ長老

注

1. ジェフリー・R・ホランド「すでに現れた祝福の大祭司」『リアホナ』2000年1月号、44
2. ボイド・K・パッカー「齢を重ねた男女」『リアホナ』2003年5月号、82
3. クラウディオ・R・M・コスタ「今日できることを明日に延ばさない」『リアホナ』2007年11月、73参照

御存じでしたか？



「選択の自由という賜物^{たまもの}の根本的な目的は、互いに愛し合い、神を選ぶことにあったということです。」

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老
「主の深い憐れみ」『リアホナ』2005年5月号, 101



これは何の数字でしょう

52,494

2008年に
世界各地で奉仕していた
専任宣教師数



イギリスにおける教会

宣教師たちが初めて海を渡ったのは1837年、派遣されたのはイングランドでした。教会が設立されてからわずか7年後のことです。1837年7月19日、7人の宣教師がイングランドに到着してプレストンで伝道を開始し、7月30日に9人の新しい改宗者にバプテスマを施しました。翌週までにさらに41人の改宗者がバプテスマを受けたのでした。

1837年から1900年までの間に、10万人もの改宗者が移住し、合衆国内の教会員と合流しました。実際、1870年頃には、ユタの人口の半数近くがイギリス系の移民でした。1950年代、教会の指導者が会員たちに自国にとどまって教会を築くことを奨励したことから、イギリス国内（イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドを含む）でも教会員数が増加しました。

1958年、ロンドンで神殿が奉献されました。1998年には、もう一つの神殿がプレストンで奉献されました。プレストンは170年以上前に初めて伝道が開始された地です。またプレストンには、教会史上最も長く続いている支部があります。この支部は1837年に設立されました。

今日のイギリスにおける教会の実情は次のとおりです。

会員数	181,756
伝道部数	7
神殿数	2
ワード/支部数	347
家族歴史センター数	120



わたしの好きな聖句

マタイ 5:14-16

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

また、あかりをつけて、それを^{ます}枘の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである。

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、

そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

この聖句が好きな理由は、自分には模範になるという責任があることを思い起こさせてくれるからです。家や教会以外の場所にいるときは特にそうです。わたしを見て、教会のことを知る人が大勢いますから。

ペルー、リマローラ・Z、15歳





人を救うこと，これがわた





七十人

エリック・W・コピシュカ長老

わ たしたちが神権会で好んで歌う賛美歌に「イスラエルの長老たちよ」という曲があります。サイラス・H・ホイーロックが詞を書きましたが、その3番は次のような歌詞になっています。

昔の指導者のごと
貧しき者を訪ねて
とこしえの命教え
シオンを知らせ、励まさん¹

告白によって神の日の栄えの王国に救われる人はだれもいないでしょう。さあ、行って、今平原にいる人たちを連れて来てください。²

この集会にはサイラス・H・ホイーロックも出席していました。彼は、10月7日、大平原で立ち往生している聖徒を救出するためにソルトレーク・シティーを出発した最初の救助隊にいました。

後日、救助隊の隊長を務めたジョージ・D・グラントは、次のようにヤング大管長に報告して



ブリガム・ヤングは立ち往生している開拓者を救出するために送られた人々に、わたしたちの宗教は人を救うことであると述べました。現代では、状況は劇的に変化しています。しかし、ヤング大管長の宣言は変わりません。わたしたちは霊的にも物質的にも困っている人々を救う義務を常に負っています。

わたしたちの宗教です

1856年10月、総大会を控えた土曜日のこと、フランクリン・D・リチャーズ長老と数人の宣教師の一行が、ソルトレーク盆地に戻って来ました。リチャーズ長老たちはブリガム・ヤング大管長に、何百人もの開拓者の男女や子供が盆地に向かう長い道の途中で例年より早い降雪に見舞われ、あちこちで立ち往生していると報告しました。人々はろくに食べ物もなく、多くの手押し車や幌馬車ほろは壊れかかっていました。人も動物も死の一手前で、救助されないかぎり、全滅は避けられません。

日曜日の朝、ヤング大管長はその日とその後に続く大会の話者に、開拓者たちの苦境について話すように割り当てました。ヤング大管長は自分の説教の中で次のように話しました。

「わたしが信じていること、そしてわたしが今受けている聖霊の指示はこうです。その人々を救いましょう。……

皆さんに申し上げます。今話している原則を実行しないかぎり、皆さんの信仰や信条、信仰

います。「この人々の状況について、わたしが詳しくお知らせする必要はないでしょう。恐らく〔ほかの人〕から聞くでしょうから。……でも、大管長には、500人から600人の男女や子供たちが、雪や泥の中で手押し車を引くことに疲れ果て、道端で気を失い、倒れ、寒さで凍えている光景を想像することができることでしょう。子供たちは泣き叫び、寒さのために手足が硬直し、足は血だらけで、中にははだして雪や霜の中を歩いている者もいます。その光景は、わたしたちの中で最も屈強な者でさえ、見るに堪えないほどです。でも、わたしたちは疑わず、絶望しないで、できることをすべてしています。³

「イスラエルの長老たちよ」の歌詞は、1856年のこの苦難の日々にホイーロック兄弟の頭に浮かんだ思いだったのかもしれませんが。救助隊は文字どおり、疲れ果てている人、飢えている人、寒さに震えている人に、救助の手を差し伸べました。人々を元気づけ、ソルトレーク盆地にあるシオンまで道を教えながら同行したのでした。

人々を救う

ジェット機の飛ぶ現代では、ヨーロッパからソルトレーク盆地まで1日もかかりません。環境も状況も劇的に変化しています。しかし、ヤング大管長の宣言は変わりません。人を救うことがわたしたちの宗教なのです。主の教会の会員として、わたしたちは霊的にも物質的にも困っている人々を救う義務を常に負っています。主は、回復された初期の教会の長老たちに、こう命じられました。「貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こしなさい。これらのことを行わない者は、わたしの弟子ではないからである。」(教義と聖約52:40)

わたしたちは主イエス・キリストのまことの弟子でありたいと願っています。また、神を愛し、その戒めを守りたいと宣言します。毎週日曜日には、バプテスマの聖約を新たにし、集会を通じて神を礼拝し、数多くの祝福を与えてくださる神を賛美します。ベニヤミン王がかつて語った言葉は今でも真実です。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」(モーサヤ2:17)

主がだれかの生活を祝福したり、困っている人を助けたりしたいと思われるときには、隣人や友人や家族を遣わされるという場合が往々にしてあります。これは、主が人に支えや救いをもたらす方法の一つです。そうすることで、わたしたちが「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」(マタイ22:39)という偉大な戒めを理解できるように助けてくださるのです。

助けの手を差し伸べたわたしたちが実は最大の祝福を受けていることは不思議なことでしょうか。主はこう約束されました。「勢力を尽くして鎌を入れる者は、減びることなく自分に救いをもたらすように蓄えるのである。」(教義と聖約4:4)人に救いをもたらすことは、自分自身にも救いをもたらすのです。

常に関心を持つ

手を差し伸べて、物質的にも霊的にも貧しい人々を支援する方法は幾つもあります。絶えず関心を持って日々の生活を送っていると、主が、人や自分自身に祝福をもたらす機会を教えてください。

最近のことですが、わたしは、ヨルダンで教会の人道支援宣教師の大会に出席しました。その宣教師たちと話しているとき、わたしは二人の姉妹が編み物をしているのに気づきました。新生児用の帽子を編んでいるのだと二人は教えてくださいました。首都アンマンの北部には、1日に50人の赤ちゃんが生まれる病院があります。その地域の人々は貧しい人ばかりです。出産の後、母親と赤ちゃんは家へ送り返されますが、

彼らの家には暖房がありません。こうして新生児の多くは、体温を保てないために病気にかかり、死んでしまうのです。わたしはその姉妹たちが編んだ帽子を二つ見本としてもらえないかと頼みました。

帰国した後、その見本を妻が扶助協会に持って行きました。すると、世界中の扶助協会の集会でよくあるように、奇跡が起きたのです。クリスマスの季節になると、近隣のワードの多くの姉妹たちが編み物を始め、新生児用の帽子を作製してくれました。姉妹たちは独りでいるときに、あるいは友人と一緒に、家で、または教会の活動で作ったのでした。

ある日、わたしが友人の一人に近況を尋ねると、彼は目を輝かせて、こう答えたのです。「ぼくは、赤ちゃん用の帽子の『犠牲者』さ。ぼくたち夫婦は朝から晩まで赤ちゃん用の帽子のことを話している。家の中だって赤ちゃん用の帽子だらけだ。」ある姉妹が電話越しにこう尋ねました。「中東って暖かい所ではありませんでしたか。」毛糸の帽子はほんとうに必要なのだとわたしが答えると、彼女はすぐに帽子作りに取り掛かりました。

わたしがヨルダンを再び訪れたとき、スーツケースには新生児用の帽子が800枚以上入っていました。病院の新生児病棟でそれを受け取った顧問医師長は、天からの贈り物だと感激しました。というのも、ヨルダンは、16年ぶりの大寒波に見舞われ、気温も常に氷点下になっていたのです。

助けの手を差し伸べる

助けの手を差し伸べることは、年齢や健康、時間、技術、財力に制限されません。助けたいという望みを持っていれば、だれでも困っている人を助けることができます。組織された福祉計画に参加してもよいでしょう。断食献金を多めに納めることもできます。病気の友人を訪ねて慰めることもできます。また、問題を抱えている人を家に招くこともできます。ホームテッチングで割り当てられた家族や、家庭訪問で割り当てられた姉妹を忠実に訪問できます。日曜日の集会に出られずに苦しんでいる友人を訪ねることもできます。専任宣教師と一緒に出かけてもいいでしょう。家族歴史を調べることも、度々神殿で奉仕することもできます。子供や孫の話聞いて、彼らを教え、光の中を歩むように励ますこともできるのです。

手を差し伸べるのに、真心からの祈りをささげたり、電話をかけたり、短い手紙を書いたりするなど、簡単なことで十分な場合があります。もし忙しすぎて、困っている人に助けの手を差し伸べる時間がなければ、それはほんとうに忙しすぎです。わたしたちが善を行うことは、救い主の呼びかけにこたえることです。

「わたしはあなたがたをこの民の光とする。丘の上にある町は隠れることができない。

見よ、人はろうそくに火をつけて灯の下に置くだろうか。そのようなことはせず、燭台に立てて、家の中のすべてのものを照らす。

だから、あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(3ニーファイ 12:14-16)

シオンと永遠の命に至る道を人々に示す

人に助けの手を差し伸べるとは、ひとえに思いやりを示すことです。わたしたちは数字や統計ではなく、周囲の人々の幸福のために行動を起こします。自分の力や能力に応じて善を行い、手を差し伸べ、霊的な助けや物質的な助けを与えるならば、必然的にシオンへの道を知らせることになります。人々はわたしたちの人となりやわたしたちが代表するものに心を引かれるに違いありません。その目で見て、その心で感じるものから祝福を受けるでしょう。そうすれば、証が生まれ、強められます。そのとき、主の確かな声がわたしたちの心に鳴り響くことでしょう。

「忠実でありなさい。わたしがあなたを任命した職において務めなさい。弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい。

あなたは最後まで忠実であれば、わたしが父の家に用意した住まいにおいて、不死不滅と永遠の命の冠を受けるであらう。」(教義と聖約 81:5-6)

実に、わたしたちの宗教は人を助け、救うことにあります。■

注

1. 「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番
2. プリガム・ヤング “Remarks,” *Deseret News*, 1856年10月15日付。ロイ・R・ヘーフェン、アン・W・ヘーフェン, *Handcarts to Zion* (1960年), 120-121; ラリース・ポーター・ガーント, リンダ・デッカー “Go and Bring Them In,” *Ensign*, 2006年12月号, 43も参照。
3. *Handcarts to Zion*, 228



人を救う使命



「わたしたちの周囲には、助けの必要な人、助けるに値する人が数多くいます。主イエス・キリストに従う者としてのわたしたちの生涯の使命は、人を救うことでなければなりません。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)
「人を救う私たちの使命」『聖徒の道』1992年1月号, 63



教会か、 ガールフレンドか

母 方の祖母は1962年に教会に入りました。そのとき、祖母の子供たちも一緒にバプテスマを受けたのですが、年月がたつにつれ、皆教会から足が遠のいてしまいました。何年も過ぎて、祖母の子供の一人であるわたしのおばがコスタリカから合衆国へ引っ越し、現地の教会に熱心に集うようになりました。

わたしはまだ10代だった1991年におばを訪ねました。おばの家にいる間に専任宣教師を紹介され、おばの家で何度か会いました。宣教師から、福音についてもっと学びたいかどうか尋ねられたのですが、わたしは興味がないと答えました。

コスタリカの家に戻ってからも、宣教師がわたしを訪ねて来ました。(おばが宣教師にわたしの住所を渡していたのです。)それでも、わたしは宣教師のメッセージに興味がなかったので、帰ってほしいと頼みました。

それから4年がたち、わたしは、長年の友人だった女性と交際しており、やがてわたしたちは婚約しました。彼女との将来について考えたとき、わたしの心はふと霊的な事柄に向きました。そして婚約者に、「わたしは神を知りたい」と話しました。そして、神について学ぶために、彼女も一緒に教会に出席してみようということになりました。その間、わたしは神を知る機会を求めて個人的にも神に祈りました。

こうして神を探し求めているとき、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師がわが家の扉をたたいたのです。宣教

わ たしの婚約者は、バプテスマを受けるとい
わたしの決断を喜びませんでした。
彼女はわたしに、彼女を選ぶか
教会を選ぶかの
選択を迫ったのです。

師が戻って来たことに腹を立てたわたしは、「帰ってくれ」と言うと、扉を閉めました。しかし、扉を閉めたその瞬間、ある思いが心をよぎりました。「あなたは神を知りたいと祈っていたのではないのか。この人たちがあなたの求める答えを持っているとしたらどうするのか。」

わたしは再び扉を開け、長老たちを呼び止めました。そして家に招き入れて、教えてほしいと頼んだのです。

宣教師たちの教える真理の力がすぐに分かりました。わたしは回復された福音を受け入れることにしました。こうして3週間後の1995年3月12日、わたしはバプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となったのです。

わたしの婚約者は、わたしの決断を

喜びませんでした。そして、約3か月後のある夜、彼女はわたしに、彼女を選ぶか教会を選ぶかの選択を迫ったのです。何とつらい決断でしょうか。結局、慎重に熟考を重ねた末、わたしは教会を選びました。

正しい決断をしたと感じましたが、破局の後の数か月は、陰うつな日々を過ごしました。それでも、新たな信仰生活を送ること、特に自分が祈ったように、天の御父を知ることができたことに希望を見いだしました。

バプテスマの1年後、わたしは専任宣教師としてニカラグアへ赴任しました。そこででの奉仕はわたしに大きな喜びをもたらし、天の御父に対する知識と愛が深まりました。ニカラグアから帰還して数か月後、わたしは後に妻となるリリと出会いました。

生活の中で福音を優先することは、



必ずしも簡単なことではありません。わたしが下した決断はつらいものでした。しかし、天の御父を知るために犠牲を払うときにはいつも、御父はわたしたち自身やわたしたちの生活のために御心を明らかにしてくださることをそのとき学び、今も学び続けています。御父の計画と戒めに従うことからもたらされる幸福は、いつでも努力するに値するものなのです。■

コスタリカ、ディエゴ・オルティス・セグラ

最も価値あるもの

わたしが救い主のその絵を選んだとき、わたしのきょうだいの何人かがくすくす笑いしました。両親の遺品の中には、彼らにとってもっと値打ちがあると思われるものがまだあったからです。

わたしたちは子供時代を過ごした家集っていました。そこに住んでいた母が、数週間前に亡くなったのです。父も5年前の2001年に他界していました。そうして遺品分けをするようになったのです。わたしたちはくじ引きをして、いちばん小さい数を引いた人から順に品物を選んでいきました。

まずは寝室の家具一式の行き先が決まり、次に冷蔵庫、ダイニングのテーブルといす、最新型の自家用車が続きました。自分は弾けないものの、わたしはピアノを選びました。子供のころ、わたしたち家族は音楽が大好きでした。父は何度もワード音楽指揮者として奉仕しましたし、両親とも歌が上手でした。大柄で力強い声の持ち主の父は、歌う機会があればいつでも応じていました。ですから、救い主の絵と同様、そのピアノもわたしには大きな意味があったのです。

わたしが選んだその絵は、「生けるキリスト——使徒たちの証」^{あかし}と同一額に並んで入れられており、わたしたちが集まっていた居間の壁に飾られていました。

そのとき、救い主や救いの計画、そしてわたしにとって両親がとても大切な存在であったことを考えずにいられてませんでした。そして、両親がわたしたちを育ててくれたこと、福音を教えてくれたこと、そして喜んで奉仕することを含めて模範を示してくれたことに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

父はビショップに召されたとき、ステーキ会長に、自分が70歳であることを伝えてこう言いました。「選ぶ人を間違えていませんか。」

それに対してステーキ会長はこう答えました。「ソルトレーク・シティーにいる幹部の兄弟たちは何歳だと思いますか。あなたはわたしたちが最初に選んだ人でも、2番目に選んだ人でもありません。主が選ばれた人なのです。」

父は自分が神に召されたのだということを知っていました。そして、立派なビショップになりました。父には、派手なところが何もありませんでした。聖文に深く精通していたわけでもありません。ただ、気取らない人で、

その絵を裏返したとき、突然、その絵がいつそう価値あるものか思えてきました。



ワードの会員に深い思いやりを示した人でした。

父がビショップとして奉仕していたとき、わたしも同じステークのほかのワードで、ビショップリックの顧問として奉仕していました。一緒に訓練集会に出席するにつれ、わたしたちの関係はキリストを中心としたものとなり、父の霊的な側面を知ることができました。

1994年に父がビショップに召されたとき、健康上の問題を抱えていました。「この召しは、わたしにあと5年の命を約束してくれるでしょうか」と父は冗談交じりにステーク会長に尋ねました。父は解任されて2年後に亡くなりました。

両親の遺品の分配を終えたとき、わたしの心にはそのような思いが次々と浮かんでいました。自宅へ戻った後、救い主の絵を飾るのにぴったりの場所を探しました。何気なく額を裏返すと、驚いたことにその絵は、父にプレゼントされたものでした。「わたしたちは、その体に見合う大きな心の持ち主であったテラービショップをいつまでも忘れないでしょう。コリー会長、カーター会長、スタッブズ会長」というステーク会長会のサインがありました。

突然、その絵がいっそう価値あるものに思えてきました。現在、その絵は、自宅にある両親のピアノの上の壁にかけてあります。実家にはまだ、自分が選んだ品で持ち帰っていないものが幾つか残っています。でも、いいのです。わたしの手もとには、最も価値あるものがあるのですから。■

アメリカ合衆国ユタ州、レイ・テラー

注

1. 「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2-3

やっと呼びかけを受け入れました

「モルモン書の進み具合はどうですか。」2005年の^{じゅうぶん}の一面接のとき、ビショップはわたしたち家族にそう尋ねました。

幼い息子を二人抱えて、教会や家庭でのたくさんの責任について話し終えたところでした。口ごもりながら、毎日1章ずつ読むことがどれほど大変かを説明しましたが、心の中では、言い訳をしていると分かっていました。この数か月間、たくさん善いことをしましたが、ゴードン・B・シンクレイ大管長が呼びかけたようにモルモン書を最初から最後まで読むことについては、努力を怠っていたのです。¹

新しい年が始まり、^{みたま}御霊がわたしの心をちくりと刺しました。自分が重い皮膚病にかかったナアマンのように思えました。ナアマンは預言者エリシャから、ヨルダン川で身を洗うように言われました。簡単なことでしたが、ナアマンは最初それに従うことを拒みしました(列王下5:1-14参照)。モルモン書を読むことも、簡単なことです。

翌週は断食日^{あかし}曜日でした。数人の兄弟姉妹たちが証を述べ、預言者の約束が生活の中で実現したことについて語りました。預言者の言葉に聞き従わなかったためにそれらの祝福を逃してしまったことは自分で分かっていました。そこで、2006年中に、またその翌年も、翌々年も、モルモン書を通読しようと決意しました。シンクレイ大管長のように、モルモン書に対する愛を得られるようにするためです。

その年が終わりに近づくにつれて、年内にモルモン書を読み終わられることを確信しながら、自分の目標につい

て振り返りました。ほかのものからは得られなかった洞察を得ていたことに気づきました。天の御父や救い主との距離は、より縮まっていました。モルモン書を読んでそれが真実であることを証できるようになったために、1年を通じて福音を分かち合う機会をもっと見つけられるようになっていました。

2005年中にシンクレイ大管長の呼びかけを受け入れていればよかったと思っています。ヨルダン川で身を洗うまで時間がかかったナアマンのように、わたしももっと早くモルモン書の祝福を受けることができたはずでした。

どんなに簡単なものであっても、預言者からの呼びかけを受け入れることの大切さを知ることができ、感謝しています。新しい年が、再びモルモン書を読むことで祝福に満ちた年になることを楽しみにしています。■

アメリカ合衆国カリフォルニア州、ジェニファー・ギャレット


注

1. ゴードン・B・シンクレイ「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号、6参照。

危ない!

1991年7月23日の夕方のことでした。チャールズ・ラーセン長老とわたしは、伝道を終えた宣教師をオークランド国際空港まで送って、伝道本部へ帰る途中でした。ニュージーランドは冬を迎え、数日間雨が降り続いていました。

わたしは、オークランドとタカプナを結ぶ巨大なハーバー・ブリッジに向かって車を走らせていました。橋を渡り始める曲がり角に差しかけたそのとき、1台の小型車がかなりのスピードでわたしたちの車を追い越して行きま



すると、突然
「危ない！」
という
大きくてはっきりとした
声が聞こえました。

した。疾走する車が曲がり始めたとき、小型車はぬれた路面でコントロールを失いました。車の後部が初めは左に、次は大きく右に振れて、コンクリートの側壁に激突してしまいました。その側壁のおかげで、車は橋から港へ落下せずに済みました。

車は激しく壁に跳ね返され、横転して滑り、ようやく止まりました。目の前の光景に衝撃を受けたわたしたちは、すぐに中央分離帯に車を止め、ハザードランプを点灯しました。本能的に、ラーセン長老とわたしは何かできることはないかとすぐに車から飛び出しました。ところが、わたしたちがその車の所までたどり着かないうちに、一人の男性が壊れた窓から這い出して、橋を下りて水辺へ向かい、暗闇の中に消えていきました。何度も呼んでみましたが、応答はありませんでした。

わたしは大破している小型車に向か

いました。車は横倒しになって、助手席側の扉が上を向いていました。窓ガラスはなくなっていたため、わたしは車にある程度よじ登って、車の中にほかにだれかいないか調べようと思いました。すると、突然「危ない！」という大きくてはっきりとした声が聞こえたのです。その声に驚いたわたしは、すぐに車から飛びのきました。それとほぼ同時に、別の車が高速で角を曲がって来て、わたしがさっきまで寄りかかっていた大破した車に激突したのです。

道路が曲がり角になっていて、高いコンクリートの側壁があるために、接近してくる車には前方の衝突車が見えませんでした。ほかにも数台の車が追突しました。ラーセン長老とわたしは曲がり角の辺りまで走って行き、両手を振って後続の車を止めました。間もなく警官が到着し、最初の車は盗難車だったことが分かりました。

伝道本部に戻ったとき、危機一髪で逃れたことについて考え、車の接近を警告してくれたラーセン長老に礼を言いました。すると、彼は驚いた様子でわたしを見て、こう言ったのです。「ソールバーグ長老、わたしは何も言いませんでしたよ。わたしはあなたのそばにいなかったし、あの車が角を曲がって来るのも見えませんでした。」

わたしたちは感謝の念に圧倒されてしばらくその場に座っていました。その晩、わたしたちはひざまずいて、文字どおりわたしの命を救ってくれた警告の声について天の御父に感謝をささげました。あの経験以来、主の御霊に対する感性を高め、御霊の声を聞くことと耳を澄ましていくことの大切さについて、わたしは何度も自分の証を伝えています。■

アメリカ合衆国ユタ州、マーク・H・ソールバーグ

家庭の夕べのためのアイデア

以下は教え方の提案です。皆さんの家庭に合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「ある家族の奉仕の伝統」

8ページ——物語を要約し、家族の良い模範によって人々に靈感を与えられることを強調してください。未来の系図表を作りましょう。

1枚の紙に子供たちの名前を書き、各自に将来自分の子供につけたいと思う名前を書いてもらいます。最後に、子供たちの模範や証が、どのように子孫に影響を与え、子孫と先祖を結びつけるかについて話し合ってください。

「友はあなたに似た者になる」31ページ——同じような品物を幾つか並べ、一つだけ違う物を置いてください。ほかと違う物は見つけやすいことを指摘します。物語を読み、「ほかの人々も皆さんの中にある違いに目を留めることができるよう願っています」という言葉の意味について話し合しましょう。人々が福音についてもっと学びたいと思えるよう、もっとイエス・キリストのような模範となる目標を立ててください。



「人を救うこと、これがわたしたちの宗教です」40ページ——「常に関心を持つ」の項を読み、これから1週間、みんなで奉仕の機会を見つけましょう

と発表してください。容器を一つと、奉仕した回数を数えるために豆か小石を幾つか用意します。「常に関心を持つ」ことは、人々に奉仕するうえでどのように役立つか話し合しましょう。今週1週間、家庭、学校、職場、教会で人々に奉仕する機会を探す目標を立て、奉仕する度に豆か小石を容器に入れていきます。翌週、幾つたまったか数えましょう。

「キャンプファイヤーでの物語とあかし」F4ページ——毛布を用意して、物語に出てくるテントの中での経験を再現しましょう。レッスンの間、お菓子を回して食べます。物語を読み、家族の二人にテントとプレットの会話をロールプレーしてもらいます。聖霊は、いつどのような言葉で証を分かち合えばよいか教えてください。聖霊の導きを受けるにふさわしい生活をして、その導きに従うよう家族に勧めてください。

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	スミス、ジョセフ、F6
愛、36、40、F2	総大会、36
証、2、13、14、36、F4	備え、14、F13
祈り、36、44、F10	伝道活動、26、28、32、35、F4
音楽、F10	友達、31
改宗、8、28、31、44	バプテスマ、26、32
家族、8、36、45、F2、F8、F10、F14、F16	福音、25
感謝、45	奉仕、2、8、14、40、F2、F14
教会歴史、18、40、F6	模範、2、8、31、F14
啓示、18	モルモン書、13、46
決意、25、44	預言者、18、36、F6、F8、F16
七十人、18	靈感、28、47、F6、F10
女性、2	
神殿活動、14	

「なぐさめを受けたルーシー」F10ページ——この話を讀んだ後で、お母さんの語った次の言葉をもう一度読んでください。「どんなことをすれば良い気持ちになるか分かるように聖霊が助けてくださったのよ。」年少の子供たちに、祈りと聖霊の導きが助けになると思われる場面を絵に描いてもらいましょう。お気に入りの初等協会の歌を皆で歌い、最後に、祈りと神聖な音楽には人の心をなぐさめる力があることを証してください。

ともに福音を学ぶ

月曜日の夜は、家庭の夕べのために時間を取る必要があります。地元の指導者は教会の建物や施設を閉鎖し、ワードやステークの活動は月曜日の夜を避けて計画し、家庭の夕べの時間を妨げるも

のがほかにないように、配慮しなければなりません。家庭の夕べでは、家族が一緒に集まって福音を学ぶことが、おもに強調されなければなりません。両親は、祈ることと安息日を守ること、そして福音を子供たちに教えるよう主

から命じられています。皆さん、この戒めをもう一度思い起こしてください。聖典は、福音を教える際の最も重要な教材です。」

大管長会からの手紙、1994年8月30日付

あなたの大好きな家庭の夕べ

あなたの大好きな家庭の夕べについての説明文を liahona@ldschurch.org までお寄せください。



「その良い方」 エルスベス・ヤング画

「……マリヤ〔は〕、主の足もとにすわって、御言みことばに聞き入っていた。

ところが、マルタは接待のことで忙いそがしくて心をとみだし〔ていた。〕……。

主は答えて言われた、『マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。

しかし、無なくてならぬものは……一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。』

(ルカ 10 : 39 - 42)



「皆さんの徳高い生活は、^{くらやみ}暗闇に座する人々にとって光となるでしょう。

なぜなら、皆さんは完全な福音の生ける証人だからです。」

ディーター・F・ワークドルフ管長は
教会の女性に向けてそのように書いている。

「美しい、しかし問題の多いこの地球のどこで生を受けたとしても、

皆さんは『弱い者を助け、垂れている手を上げ、
弱くなったひざを強める』存在になれるのです。」

「義にかなった女性の影響力」2ページ参照